

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
技術英語	平成18年度	日下 隆司	専1	前期	1	必
<p>[授業の目標]</p> <p>さまざまな分野を扱った英文を読み、必要な情報を効率的にすばやく得るために役立つ skimming scanning の練習を行い、TOEIC 等の資格試験に対応できる英文速読力を身につける。</p>						
<p>[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標(A) < 視野 > [JABEE 基準 1(1)(a)]および(C) < 英語 > [JABEE 基準 1(1)(f)] に対応する。</p> <p>第1週 授業の概要 Unit 1 “Have fun at the museum or theater.”</p> <p>第2週 Unit 2 “Bon Appetit!”</p> <p>第3週 Unit 3 “Is your passport valid?”</p> <p>第4週 Unit 4 “Are you satisfied with the hotel facilities?”</p> <p>第5週 Unit 5 “There’s no place like home.”</p> <p>第6週 Unit 6 “Nothing is more precious than health!”</p> <p>第7週 まとめ、演習</p> <p>第8週 中間試験</p>			<p>第9週 Unit 7 “Money makes the mare go.”</p> <p>第10週 Unit 8 “The sky is the limit.”</p> <p>第11週 Unit 9 “Our products are in the forefront of a new technology.”</p> <p>第12週 Unit 10 “I believe there’s a chance we can negotiate.”</p> <p>第13週 Unit 11 “This is our final offer.”</p> <p>第14週 Unit 12 “Career opportunities for you.”</p> <p>第15週 まとめと演習</p>			
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 限られた時間内で、対象となる英文を読んで内容の要点を理解することができる。</p> <p>2. 英文の流れをつかみながら、その内容を正確にできるだけ速く理解することができる</p> <p>3. 読んだ内容に関する英文を聞いて、その英語の意味を理解し書き取ることができる。</p>			<p>4. 教科書本文に出てきた英単語、熟語、構文の意味の理解およびその英語を書くことができる。</p> <p>5. 教科書本文に出てきた文法事項が理解できる。</p> <p>6. 読んだ内容に対する自分の考えや意見を簡単な英語で表現できる。</p>			
<p>[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出、及び小テストを求めするので、日常的に英語に触れる習慣を身につけ、英語学習に努めること。</p>						
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 昨年度までに学習した英語の基礎的な知識・技能</p>						
<p>[レポート等] 授業内容と関連する英作文、英文和訳を与える。</p>						
<p>教科書: Practical Reading Skills for the TOEICR Test (成美堂) その他適宜プリントを配布する。 参考書: 超基礎からのステップアップ TOEIC テスト語法・文法・リーディング (旺文社)</p>						
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>求められる課題の提出をしていなければならない。前期中間、期末の2回の試験の平均点を60%とし、英作文、英文和訳、小テスト、及びその他課題の各評価を10%、合計40%とし、その合計点で評価する。ただし、前期中間試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。前期末試験においては、再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>						

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語総合	平成18年度	Mike Lawson	専1	後期	1	必

[授業の目標]

Basing class activities on various cross-cultural themes, the objective of this course is to improve students' practical levels of reading and listening comprehension and their abilities to converse in English.

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標(A) < 視野 > [JABEE 基準 1(1)(a)] および (C) < 英語 > [JABEE 基準 1(1)(f)] に対応する。

Week

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 | Introduction to the course |
| 2 | Unit 1—The beautiful game |
| 3 | Unit 2—The science of sports |
| 4 | Unit 3—Sports for everyone |
| 5 | Unit 4—Work around the world |
| 6 | Unit 6—Unusual occupations |
| 7 | REVIEW |
| 8 | MIDTERM EXAM |

Week

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 09 | Unit 7—Life on death row |
| 10 | Unit 8—Crazy criminals |
| 11 | Unit 9—Crime fighters |
| 12 | Unit 10—Childhood memories |
| 13 | Unit 11—Growing up in another culture |
| 14 | Unit 12—Gifted children |
| 15 | REVIEW |

[この授業で習得する「知識・能力」]

At a level suited for first semester, first year advanced students, students will:

1. Improve their practical level of reading comprehension;
2. Improve their practical level of listening comprehension;

3. And will improve their ability to converse in English.

Students will develop their reading, listening and speaking skills from a cross-cultural context, with an emphasis on Western culture.

[注意事項]

1. Please visit my website (under construction) for information related to English learning.
2. Please visit our Internet website “English-Muscle” at <http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/engcom/> for fun English-learning activities.
3. You may contact me at any time at either of the two following email address:
lawson@gen1.suzuka-ct.ac.jp, suzuka11@hushmail.com

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

An understanding of basic English syntax and grammar.

[レポート等]

教科書 : **Text:** Craven, Miles. *Reading Keys (Bronze, Book A)*. Macmillan Languagehouse.

参考書 : **Subtext:** A Japanese-English dictionary and an English grammar guide. Material as distributed in class.

[学業成績の評価方法および評価基準] 25% Midterm exam, 25% Final Exam, 25% Essays, 25% Homework

[単位修得要件] Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
技術者倫理	平成 18 年度	奥 貞二 澤田 善秋	専 1	後期	2	必

<p>[授業の目標]</p> <p>地球に生きる技術者に相応しい知恵を身につけるため、以下の項目について学習する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A) < 技術者倫理 > と、 JABEE (1)(b)に対応する。</p> <p>第 1 週 序 (何故技術者倫理を学ぶのか) (担当奥以下 0)</p> <p>第 2 週 技術士、技術士補の現状 (担当澤田以下 S)</p> <p>第 3 週 (現代) 技術社会 自然社会 (担当 0)</p> <p>第 4 週 技術社会 技術者の責任(担当 0)</p> <p>数学的言葉(理性)のルール・・・自然</p> <p>第 5 週 科学、科学と人間、科学、人間と科学、所有知と使用知、プロメテウス (担当 0)</p> <p>第 6 週 倫理と技術者倫理の関係 (担当 0)</p> <p>第 7 週 資本主義経済の特徴 (担当 0)</p>	<p>第 8 週 中間テスト</p> <p>第 9 週 事例研究 1 (担当 S)</p> <p>第 1 0 週 商品テスト(担当 0)</p> <p>第 1 1 週 法律とエンジニア(担当 0)</p> <p>第 1 2 週 事例研究 2 (担当 S)</p> <p>第 1 3 週 内部告発と倫理綱領(担当 0)</p> <p>第 1 4 週 事例研究 3 (担当 S)</p> <p>第 1 5 週 エンジニア教育と倫理(担当 0)</p> <p>第 1 6 週 学年末テスト</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1 . 技術者倫理学習の必然性 .</p> <p>2 . 技術士の現状と課題</p> <p>3 . 科学知の限界はどこか .</p>	<p>4 . 事例研究の意義 .</p> <p>5 . 法的知識 .</p> <p>6 . 商品テスト、内部告発、</p>
<p>[注意事項] 知識を学ぶのではなく、知恵を身につける手助けとすること。授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進める。授業中参考書や必読書を紹介するので、その都度目を通してから授業を受けるのが望ましい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>特になし .</p>	
<p>[レポート等] レポート等に課題を課すことがある .</p>	
<p>教科書 : 「技術者倫理」松島隆裕編 学術図書出版</p> <p>参考書 :</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>担当奥については、後期中間、学年末の 2 回の試験の平均点で、しかも 6 0 点満点に換算して評価する。担当澤田については、学年末にレポートを課せ、40 点満点に換算し、奥と合わせ 1 0 0 点満点とする。ただし、奥の後期中間試験で、合格点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、合格点を上限として試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 6 0 点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
代数学特論	平成18年度	堀江 太郎	専1	後期	2	必

[授業の目標]

最初に線形代数の知識の再確認と補充を行う。その後にベクトル解析の学習を行う。

[授業の内容]

すべての授業の内容は、学習・教育目標(B) <基礎> および JABEE 基準 1(1)(c)に対応する。

第1週 線形空間と部分空間

第2週 基底と次元

第3週 空間のベクトルの内積と外積

第3週 線形写像

第4週 像空間 (Image) と核空間 (Kernel)

第6週 行列の固有値と対角化

第7週 Jordan 標準形

第8週 中間試験

第9週 ベクトル値関数の微分

第10週 ベクトル値関数と空間曲線

第11週 スカラー場の微分と勾配

第12週 ベクトル場の発散と回転

第13週 線積分の基礎

第14週 面積分の基礎

第15週 ガウスの定理とストークスの定理

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 線形空間の定義を理解し、その基底と次元などが計算できる。
2. 内積と外積の概念を理解し、その計算ができる。
3. 線形写像の定義を理解し、具体的な例について計算ができる。
4. 行列の固有値と対角化について理解し、計算ができる。

5. 空間のベクトル値関数の微分の意味及び図形的な意味を理解し、その計算ができる。
6. スカラー場及びベクトル場における勾配、発散、回転の意味およびその関係が理解できる。
7. スカラー場及びベクトル場における線積分の概念を理解し、その計算ができる。
8. スカラー場及びベクトル場における面積分の概念を理解し、その計算ができる。

[注意事項] 単位制を前提として授業を進め、課題提出を求めたり小テストを行うので、日頃の予習復習に力を入れること。
線形代数・ベクトル解析とも、図形的なイメージとその意味を考えること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 線形代数の基礎知識と微分積分の知識

[レポート等] 適宜レポートを課す

教科書：「演習と応用 線形代数」寺田文行他著（サイエンス社）、「ベクトル解析の基礎」寺田文行他著（サイエンス社）
参考書：

[学業成績の評価方法および評価基準] 適宜求めるレポートの提出をしていなければならない。前期中間、前期末の2回の試験の平均点を60%、課題の評価を20%、ショートテストを20%として評価する。ただし、前期中間試験の得点が60点に満たない場合は、補講の受講やレポート提出等の後、再テストにより再度評価し、合格点の場合は先の試験の得点を60点と見なす。

[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
科学実験法	平成18年度	近藤 一之	専1	前期	2	必

[授業の目標] 自然科学ではどのように実験や観察をするか、どのように合理的な考察を進めるか、そのために何が重要であるかを理解し、「自然科学の考え方」を体得することがこの科目の目標である。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標(B)＜専門＞およびJABEE基準1(1)(d)(2)aに対応する

第1週 自然科学とは何かについて、歴史的観点と現在の状況を述べ、全体像を概観する。

第2週 自然科学における観察と実験のプロセスを説明する。

第3週 自然科学の言葉とも言える単位と標準について説明する。

第4週 様々なデータを読み解く手法として、分析と統合について説明する。

第5週 マクロの現象とミクロな要因との関係について説明する。

第6週 ミクロの物質が関係する現象の特徴と実験法について解説する。

第7週 実験においては自然現象に働きかける方法もある。これらの方法について説明する。

第8週 中間試験

第9週 ノイズが混入する中から微少な信号を取り出す工夫について説明する。

第10週 自然現象は意外に単純明快な美しい法則に支配されている場合が多い。これらの例について説明する。

第11週 雑音をなるべく小さくする工夫について説明する。

第12週 数学で表現された法則の見方について説明する。

第13週 実験で得られたデータに対する、評価と判断の仕方について解説する。

第14週 情報の収集、文献の検索について説明する。

第15週 研究成果の発表の仕方について説明する。

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 自然科学とは何かについて、歴史的観点と現在の状況、全体像を説明できる。
2. 自然科学における観察と実験のプロセスを説明できる。
3. 自然科学の言葉とも言える単位と標準について説明できる。
4. 様々なデータを読み解く手法として、分析と統合について説明できる。
5. マクロの現象とミクロな要因との関係について説明できる。
6. ミクロの物質が関係する現象の特徴と実験法について説明できる。
7. 自然現象に働きかける実験方法を説明できる。

8. ノイズが混入する中から微少な信号を取り出す工夫について説明できる。
9. 自然現象の単純明快な法則の例について説明できる。
10. 雑音をなるべく小さくする工夫について説明できる。
11. 数学で表現された法則の見方について説明できる。
12. 実験で得られたデータに対する、評価と判断の仕方について説明できる。
13. 情報の収集、文献の検索の仕方を体得している。
14. 研究成果の発表の仕方を体得している。

[注意事項] 単位制を前提として授業を進め、課題提出を求めるので、日頃の学習に力を注ぐことが必要である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 機械・電気・情報・化学・材料実験に関する基礎知識を修得していることが望ましい。

[レポート等] 適宜、授業の理解・確認のためのレポート提出を求める。

教科書：「実験科学の方法」 濱田嘉昭、菊山宗弘著（日本放送出版会）

参考書：「科学実験法」 兵藤伸一編著（放送大学教育振興会）

[学業成績の評価方法および評価基準] 適宜求めるすべてのレポートの提出をしていなければならない。前期中間・前期末の2回の試験の平均点を60%、課題の評価を40%として評価する。ただし、前期中間試験の得点が60点に満たない学生は再試験を課す場合がある。再試験については、60点を上限として前期中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。

[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
環境保全工学	平成 18 年度	岩田 政司	専 1	前期	2	必

[授業の目標] 地球環境問題の概要，生産活動に伴う水質汚濁・大気汚染の防止技術の概要，廃棄物処理，環境管理手法，環境影響評価法について学ぶ。

[授業の内容]	
第 1 週 授業の概要 環境科学の基礎(1)：気圏・水圏・地圏の構成，物質とエネルギーの循環，地表の平均気温を決めるメカニズム ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))	第 8 週 中間試験
第 2 週 環境科学の基礎(2)：生態系の構造と機能 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))	第 9 週 浄水技術と下水処理技術 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))
第 3 週 地球環境問題(1)：地球温暖化，オゾン層の破壊，酸性雨 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))	第 1 0 週 大気汚染(1)：大気汚染物質，大気汚染と気象 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))
第 4 週 地球環境問題(2)：技術的対策，行政的対策 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))	第 1 1 週 大気汚染(2)：大気汚染防止技術 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))
第 5 週 水質汚濁(1)：水質汚濁の種類，水質汚濁指標 ((A) < 技術者倫理 > ，(B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(b)(d)(1)))	第 1 2 週 廃棄物：廃棄物の発生構造，廃棄物の現状，廃棄物処理，ごみ処理プロセス ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))
第 6 週 水質汚濁(2)：水質有害物質 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))	第 1 3 週 再資源化，最終処分場計画，焼却処理とダイオキシンの発生 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))
第 7 週 水質汚濁(3)：水質汚濁の防止技術 ((B) < 専門 > (JABEE 基準(1)(d)(1)))	第 1 4 週 環境管理手法：I S O 14000，ライフサイクルアセスメント ((A) < 技術者倫理 > (JABEE 基準(1)(b)))
	第 1 5 週 環境影響評価：環境影響評価の手順 ((A) < 技術者倫理 > (JABEE 基準(1)(b)))

[この授業で習得する「知識・能力」]

(環境科学の基礎)

1. 地球全体を平均した熱収支を説明できる。
2. 以下の事項が簡単に説明できる。

地球温暖化，オゾン層の破壊，酸性雨

(水質汚濁)

1. 以下の事項が簡単に説明できる。

B O D ， C O D ， 富栄養化，生物濃縮，川の自浄作用

2. 廃水処理の概要を理解している。
3. 浄水プロセスの概要を説明できる。
4. 下水処理プロセスの概要を説明できる。

(大気汚染)

1. 大気の安定度と煙の流れについて説明できる。
2. 硫黄酸化物の K 値規制について説明できる。
3. 大気汚染の制御方策を理解している。

(廃棄物)

1. ダイオキシンの発生のメカニズムと，生体への影響の概要を理解している。

(環境影響評価)

1. 環境アセスメントの意義と，アセスメント実施手続きについて理解している。

[注意事項] 広範な分野を対象とするため，関連する分野の復習を積極的に行うことを期待する。自己学習を前提とした規定の単位数に基づき授業を進め，課題提出を求めたり小テストを行うので，日頃の勉強に力を入れること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 化学・生物・物理に関する基礎的事項は理解している必要がある。

[レポート等]

教科書：「環境工学」住友恒，村上仁士，伊藤禎彦（理工図書）

参考書：「地球持続の技術」小宮山宏（岩波新書），「地球環境問題に挑戦する」黒田千秋，宝田恭之編（培風館）

[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間，前期末の 2 回の試験の平均点を 60%，課題の評価を 20%，小テストを 20% として評価する。ただし，前期中間試験の得点が 60 点に満たない場合は，同レベルの再試験を課し，再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には 60 点を上限として中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。期末試験については再試験を行わない。

[単位修得要件] 学業成績で 60 点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
信頼性工学	平成18年度	民秋 実	専1	前期	2	必

[授業の目標]

信頼性工学の基礎知識と利用方法そして最新の産業用システムへの応用について学習する。

[授業の内容] 第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標 (B) < 専門 > (JABEE 基準 1(1)(d)(2)a) に対応する

第1週 信頼性工学の基礎 (歴史, 用語)

第2週 品質保証と信頼性

第3週 製造物責任と信頼性

第4週 信頼性特性値 : (故障率, $MTTF$, $MTBF$)

第5週 安全性 : ($MTTR$, PM , アベイラビリティ)

第6週 単純な系の信頼度 (直列系, 冗長系)

第7週 様々な系の信頼度

第8週 中間試験

第9週 寿命分布と故障率

第10週 指数分布と信頼性特性値 (物理的背景, 理論)

第11週 信頼度の推定方法 (点推定と区間推定)

第12週 ワイブル分布と統計的手法 (物理的背景, 理論)

第13週 $FMEA$

第14週 FTA

第15週 信頼性設計・信頼性試験・デザインレビュー

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 信頼性工学の用語について説明できる。
2. 直列系, 冗長系の信頼度について計算できる。
3. 一般的な系の信頼度について計算できる。
4. 信頼性特性値の物理的意味を説明でき, それらの値を計算することができる。
5. 指数分布の場合の信頼性特性値を計算できる。
6. ワイブル分布確率紙を使って信頼性特性値を求めることができる。

7. 信頼度の点推定と区間推定を計算できる。
8. 身近な事例について, $FMEA$ 解析が行える。
9. 身近な事例について, FTA 解析が行える。
10. 信頼性設計について説明できる。

[注意事項] 自己学習を前提とした単位制に基づく授業を進めるため, 課題提出や小テストを行うので, 関数電卓を用意し, 日頃の予習復習に力を入れること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 信頼性工学は確率論を主な道具として信頼性を定量的に取り扱うものである。従って, 統計数理の基礎的事項について理解している必要がある。

[レポート等] 理解を深めるため, 適宜, 演習課題を与える。

教科書: 信頼性工学入門 真壁肇著 (日本規格協会)

参考書:

[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間・前期末の2回の試験の平均点を全体評価の80%とする。ただし前期中間において60点に達していない場合には, それを補うための補講に参加し, 再試験により該当する試験の成績を上回った場合には60点を上限として評価する。残りの20%については講義中に行う小テストの結果で評価する。

[単位修得要件] 与えられた演習課題を全て提出し, 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
応用情報工学	平成18年度	桑原 裕史	専1	前期	2	必

<p>[授業の目標]</p> <p>技術用・研究用のデータ処理の道具として手軽で有用なVBA (Visual Basic for Application) 言語の基本をマスターし、情報機器のより効果的な利用を行えるようにする。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>ここでの学習内容は、すべて、学習・教育目標の(B)の<専門>およびJABEE基準1(1)(d)(1)に対応する。</p> <p>第1週 VBAとマクロ</p> <p>第2週 マクロの記録と利用方法</p> <p>第3週 Visual Basic Editor の使用したマクロの記述</p> <p>第4週 VBAの基本構文の理解</p> <p>第5週 VBAを用いた簡単なプログラムの作成</p> <p>第6週 VBAを用いた簡単なプログラムの作成 続き</p> <p>第7週 VBAにおける変数の利用</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 VBAの制御構造の理解</p> <p>第10週 VBAの制御構造の理解 続き</p> <p>第11週 対話型プロシージャの作成</p> <p>第12週 対話型プロシージャの作成 続き</p> <p>第13週 実践的プログラム(成績処理)作成</p> <p>第14週 同上 (成績処理プログラム)作成続き</p> <p>第15週 同上 (成績処理プログラム)作成続き</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. VBAとマクロとはどのようなものかを理解する。</p> <p>2. マクロの記述方法と利用方法を理解する。</p> <p>3. エディタの使用法を理解する。</p> <p>4. VBAの基本文法を理解する。</p>	<p>5. VBAの基本制御構造を理解する。</p> <p>6. 簡単な対話型プログラムの作成ができる。</p> <p>7. 簡単な実用的プログラムが記述できる。</p> <p>8. VBAを道具として使用することで、コンピュータの利用範囲が大幅に拡大することを体験する。</p>
<p>[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出を求めたりショートテストを行うので、日頃の勉強に力を入れること。プログラミングを得意としない学生にも理解しやすいように講義と実習を行うので、コンピュータ利用に対して無用なコンプレックスを持つことが無いようお願いしたい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 基本的なコンピュータ利用技術の経験を有することが望ましい。</p>	
<p>[レポート等] 理解を深めるため、プログラムなどの提出を求める。</p>	
<p>教科書：自作のテキストを用意する。</p> <p>参考書：「Excel VBA」基礎編 大村あつし(技術評論社)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>適宜求めるレポートの提出をしていなければならない。前期中間、前期末の2回の試験の平均点を60%、課題の評価を20%、ショートテストを20%として評価する。ただし、前期中間試験の得点が60点に満たない場合は、補講の受講やレポート提出等の後、再テストにより再度評価し、合格点の場合は先の試験の得点を60点と見なす。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
化学総論	平成18年度	杉山 利章	専1	前期	2	選

[授業の目標]

技術者として必要である基本的な化学熱力学の概念を理解するとともに、物質の状態についての知識が様々な分野での応用に役立つことを目指す。

[授業の内容]

ここでの学習内容は、すべて、学習・教育目標の(B)の<基礎>(JABEE基準1(1)(c))に対応する。

第1週 第1章：熱力学第1法則
 第2週 第2章：エンタルピー
 第3週 第3章：エントロピー
 第4週 第4章：自由エネルギー
 第5週 第5章：熱力学関係式
 第6週 第6章：気体の性質
 第7週 第7章：生成自由エネルギー

第8週 中間試験

第9週 第8章：混合物の熱力学
 第10週 第9章：部分モル量と化学ポテンシャル
 第11週 第10章：化学ポテンシャルと平衡
 第12週 第11章：相平衡
 第13週 第12章：酸塩基平衡
 第14週 第13章：イオン平衡
 第15週 第14章：電池と起電力

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 熱力学第1法則に関する知識を持っている。[第1週]
2. エンタルピーに関する知識を持っている。[第2週]
3. エントロピーに関する知識を持っている。[第3週]
4. 自由エネルギーに関する知識を持っている。[第4週]
5. 熱力学関係式に関する知識を持っている。[第5週]
6. 気体の性質に関する知識を持っている。[第6週]
7. 生成自由エネルギーに関する知識を持っている。[第7週]

8. 混合物の熱力学に関する知識を持っている。[第9週]
9. 部分モル量と化学ポテンシャルに関する知識を持っている。[第10週]
10. 化学ポテンシャルと平衡に関する知識を持っている。[第11週]
11. 相平衡に関する知識を持っている。[第12週]
12. 酸塩基平衡に関する知識を持っている。[第13週]
13. イオン平衡に関する知識を持っている。[第14週]
14. 電池と起電力に関する知識を持っている。[第15週]

[注意事項] 学習のための補助教材が、以下のホームページ <http://www.suzuka-ct.ac.jp/chem/users/sugiyama/souron/souron.htm>

にあります。プリントアウトして、授業時に持参してください。また、自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、毎回の授業時間で実施する小テストにより判定される知識・能力の習得状況を重点的に評価に取り入れます([学業成績の評価方法および評価基準] を参照) ので、日頃の自己学習に力を入れてください。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 特になし

[レポート等] 特になし

教科書： 特になし

参考書： 特になし

[学業成績の評価方法および評価基準]

授業期間を中間試験および定期試験によって区切られる「2つの区分」に分割する。

小テスト(10点満点)を実施し、[この授業で習得する「知識・能力」] において示されている「14の学習項目」について、それぞれの学習項目ごとに、その理解の程度を確認する。

定期(中間)試験では、小テストにより理解できていると判定された学習項目を除いて、その区分にある学習項目の理解の程度を確認する。

それぞれの区分の評価は、その区分で実施された「小テストの受験回数」を n 、「小テストの合計点数」を t 、「定期(中間)試験前における小テストによる理解度の確認で理解不足であると見なされた学習項目数」を N 、「定期(中間)試験(各問10点)の合計点数」を T とすると、 $(100t/8 + 10T)/(n + N)$ で与える。

学業成績は、それぞれの区分ごとに評価された点数を算術平均したものとす。ただし、全授業期間を通じて、『理解したと認められる学習項目数が「10」以上の者については60点未満であっても60点を与え、そうでない者について60点以上が得られたとしてもその者には59点を与える。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
応用物理学	平成18年度	仲本 朝基	専1	後期	2	選

[授業の目標]

20世紀になって発展した物理学、量子力学、統計物理学、物性物理学の基礎を学ぶ。材料科学、化学、電子物性等を学ぶための基礎を身に付ける。

[授業の内容]

この授業の内容は全て学習・教育目標(B) <基礎>および JABEE 基準 1(1)(c), (d)(1)に対応する。

第1週 前期量子論、現代物理学の成立、量子力学の成立
 第2週 量子力学の成立。シュレーディンガー方程式
 第3週 量子力学 の考え方
 第4週 量子力学の応用、箱の中の粒子、
 第5週 水素原子の固有関数
 第6週 原子の構造 パウリの排他律、周期律
 第7週 量子力学のまとめ
 第8週 中間テスト

第9週 統計物理学 統計力学はなぜ必要か
 第10週 ボルツマン分布関数
 第11週 ボーズ分布関数統計
 第12週 フェルミ分布関数
 第13週 統計物理学の応用
 格子振動・比熱のアインシュタインモデル
 第14週 物性物理学の基礎
 第15週 物性物理学の基礎

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. シュレーディンガー方程式など量子力学の基本を理解している
 2. シュレーディンガー方程式の応用例として、箱の中の粒子、水素原子の構造の問題が解ける。

3. 統計力学の基本的な考え方が理解できる
 4. ボルツマン統計、比熱のアインシュタインモデルが理解できる
 5. 物性物理への基礎的な応用例が理解できる

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、ほぼ毎回、前回の復習を兼ねた小テストを行うので、日頃から復習を心がけること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 学科3,4年生で習った応用物理の基礎が理解されていること。

[レポート等] 特になし

教科書：プリント を配布

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間試験またはそれに代わる再試験(本試験で60点に達しなかったものが受験して本試験以上の点数を取れば上限を60点として評価を置き換える)と定期試験の平均点を75%、小テスト(再試験なし)の平均点を25%の割合で総合評価したものを学業成績とする。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報学基礎論	平成18年度	田添 文博	専1	後期	2	選

<p>[授業の目標]</p> <p>コンピュータ・テクノロジーの基礎を講義する。この講義を通して、ブラックボックス化されたコンピュータのハードウェアとソフトウェアについて理解を深める。コンピュータ・トラブルに遭遇したときの、原因の見当がつくようになることを目標とする。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標（B）＜専門＞（JABEE 基準 1(1)(d)(2)a)）に相当する。</p> <p>第1週 コンピュータの3大原則 第2週 マイクロコンピュータ 第3週 アセンブリ言語 第4週 プログラミング 第5週 アルゴリズム 第6週 データ構造 第7週 演習 第8週 中間試験</p>	<p>第9週 オブジェクト指向 第10週 データベース 第11週 TCP/IPネットワーク 第12週 暗号化 第13週 XML 第14週 SEの役割 第15週 演習</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. コンピュータのしくみについて理解する。 2. ハードウェアとソフトウェアの関係について理解する。 3. プログラミングの基礎について理解する。 4. データベースの基礎について理解する。 5. ネットワークの基礎について理解する。 6. セキュリティの基礎について理解する。</p>	
<p>[注意事項]</p> <p>自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、インターネット経由での課題提出を求めたり小テストを行うので、インターネットが利用できる環境を準備するとともに、日頃の予習復習に力を入れること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>コンピュータの基本的な使い方（Windows, ワープロ, WWWなど）</p>	
<p>[レポート等] 自己学習の成果を確認するために、インターネット経由での課題提出を求めたり小テストを行う。</p>	
<p>教科書： 「コンピュータはなぜ動くのか」 矢沢久雄著（日経BP社） 参考書： 関係する参考書は図書館に多数ある。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>適宜求める課題の提出をしていなければならない。中間、期末の2回の試験の平均点を60%、課題の評価を20%、小テストを20%として評価する。ただし、中間試験の成績が60点に達していない者には再試験の機会を与え、再試験の成績が再試験前の成績を上回った場合には60点を上限として置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
データ処理システム	平成 18 年度	井瀬 潔	専 1	前期	2	選

<p>[授業の目標]</p> <p>科学技術のあらゆる分野において必要不可欠の基礎技術となったデジタル信号処理の基礎理論の習得を目的としている。信号処理としてデジタルフィルタリングと離散フーリエ変換を中心に取り上げる。原理を数式として理解するだけでなく、MATLAB によるプログラミングを通して物理的意味を視覚的にも理解する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標 (B) <専門> および JABEE 基準 1(1)(d)(2)a) に対応する。</p> <p>第 1 週 序論：デジタル信号処理とその目的，MATLAB 使用説明</p> <p>第 2 週 離散時間信号と離散時間フーリエ変換</p> <p>第 3 週 離散フーリエ変換 (DFT) とスペクトル解析</p> <p>第 4 週 高速フーリエ変換 (FFT)</p> <p>第 5 週 離散時間システムとデジタルフィルタの基礎</p> <p>第 6 週 z 変換</p> <p>第 7 週 デジタルフィルタの解析</p> <p>第 8 週 中間試験</p>	<p>第 9 週 周波数選択性デジタルフィルタおよび設計仕様</p> <p>第 10 週 FIR フィルタの設計：窓関数法</p> <p>第 11 週 IIR フィルタの設計 1：間接設計法</p> <p>第 12 週 IIR フィルタの設計 2：直接設計法</p> <p>第 13 週 2次元信号と2次元離散空間フーリエ変換</p> <p>第 14 週 2次元信号と2次元離散フーリエ変換(2次元DFT)</p> <p>第 15 週 2次元デジタルフィルタの解析と設計</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. デジタル信号処理の利点と問題点を述べるができる。</p> <p>2. 離散時間信号に対して離散時間フーリエ変換を求め、その振幅スペクトルを図示することができる。</p> <p>3. N点信号 $x(n)$ の DFT を求め、振幅スペクトルを図示することができる。</p> <p>4. FFT の原理を説明することができる。</p> <p>5. デジタルフィルタの単位ステップ応答、単位インパルス応答を求めることができる。</p> <p>6. 信号の z 変換、デジタルフィルタ出力の z 変換ができる。与えられた $X(z)$ に対して逆 z 変換 $x(n)$ を求めることができる。</p> <p>7. デジタルフィルタの伝達関数と周波数応答を求めることができる。また、振幅特性と位相特性を図示することができる。</p>	<p>8. 所望の応答や特性をもつデジタルフィルタを設計するための仕様を作ることができる。</p> <p>9. 窓関数法により FIR フィルタの設計ができる。</p> <p>10. 間接設計法 (インパルス不変変換法および双 1 次 z 変換法) により IIR フィルタを設計できる。</p> <p>11. 直接設計法により IIR フィルタを設計できる。</p> <p>12. 2次元信号の2次元離散空間フーリエ変換を求め、その振幅スペクトルを図示することができる。</p> <p>13. (N_1, N_2) 点の2次元信号の2次元DFTを求め、振幅スペクトルを図示することができる。</p> <p>14. 2次元デジタルフィルタの伝達関数と周波数応答を求めることができる。</p>
<p>[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、レポート提出を求めるので日頃の勉強に力を入れること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 複素解析学を勉強しておくのが望ましい。</p>	
<p>[レポート等] 理解を深めるためレポート提出を求める。</p>	
<p>教科書：「MATLAB 対応 デジタル信号処理」 樋口龍雄 川又政征 共著 (昭晃堂)</p> <p>参考書：「シミュレーションで学ぶデジタル信号処理」 尾知博 著 (CQ 出版社)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>適宜求めるレポートの提出をしていなければならない。前期中間、前期末の2回の試験の成績の平均点を60%、レポートの成績を40%として成績を評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
先端技術特論	平成18年度	桑原, 井瀬, 末次, 他	専1・2	通年	2	選

[授業の目標]

SCSなどを利用し、豊田、岐阜、沼津高専等と協力して、映像・音声による双方向の遠隔授業などを行う。先端的な研究の紹介、関連分野の最近の技術と動向に触れ、先端技術研究への知識と関心を深める。

[授業の内容] (学習・教育目標 B<専門>, JABEE(d)(2)a)に対応)

1. 「システム回路や制御ネットワークの推定法」

池田 徹之(岐阜高専 教授 専門基礎)

2. 「種々の応力ひずみ解析手法について」

末次 正寛(鈴鹿高専 助教授 機械工学科)

3. 「生産加工へのIT 応用技術について」

藤尾 三紀夫(沼津高専 助教授 制御情報工学科)

4. 「リチウムイオン導電性材料」

大塚 秀昭(豊田高専 教授 一般学科物理)

5. 「質量分析法の昨今」

桑原 裕史(鈴鹿高専 教授 電子情報工学科)

6. 「食品ポリフェノールの機能性について」

芳野 恭士(沼津高専 教授 物質工学科)

7. 「LSI の配線技術」

井瀬 潔(鈴鹿高専 教授 電子情報工学科)

8. 「福祉ロボットについて」

北川 秀夫(岐阜高専 助教授 電子制御工学科)

9. 「高分子絶縁材料の交流高電界下での電気伝導特性」

遠山 和之(沼津高専 助教授 電子制御工学科)

10. 「既設円筒鋼製橋脚の耐震補強法について」

忠 和男(豊田高専 助教授 環境都市工学科)

11. 「最適化手法のひとつである遺伝的アルゴリズムの地下水問題への適用について」

鈴木 孝男(岐阜高専 教授 環境都市工学科)

12. 「化合物半導体半導体の基礎とその応用」

杉浦 藤虎(豊田高専 助教授 電気・電子システム工学科)

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 講義のポイントを理解し、レポートに要点がわかりやすくまとめられている。

2. 疑問点を明確にし、レポートの中で、考察、資料調査がなされている。また、講義中に講師の指示により、必要に応じて質疑応答ができる。

3. レポートにおいて、講義で紹介された技術の基礎、関連事項、動向、応用について、調査がなされている。

[注意事項] 教室は通常、専攻科棟4階のAVルームを使用する。講義題目と日時は、専攻科玄関の掲示板に掲示、またはタッチパネルに掲載する。原則、15回の講義が準備されるが13回目～15回目の講義については、講義題目、日時が決定次第通知する。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

[レポート等] 2週間以内に専攻科長に提出する。

教科書：講義のレジюме(講義要旨)を配布する場合がある。

参考書：特になし。

[学業成績の評価方法および評価基準]

12回以上講義を受講してレポートを提出する。提出されたレポートにより成績を評価する。

[単位修得要件]

評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
実践工業数学	平成18年度	授業担当教員	専1・2	前期	2	選

[授業の目標]

eラーニングに係る遠隔教育により、工学の各専門に用いられる数学を、応用面から理解しながら学ぶ。

[授業の内容] (学習目標B<専門>, JABEE(d)(2)a) に対応)

機械工学編 - ベクトルと行列

主担当：鈴鹿高専（機械工学科）白井達也

数学部分：群馬高専 碓氷久，鈴鹿高専 安富真一

(1) 多関節ロボットの順運動学

(2) 多関節ロボットの逆運動学

電気・電子工学編 - 微分方程式，ベクトル，確率，関数

主担当：鈴鹿高専（電気電子工学科）柴垣寛治

数学部分：岐阜高専 岡田章三，鈴鹿高専 堀江太郎

(1) 放電現象の物理

(2) 気体論

情報工学編 - ベクトルと行列

主担当：鈴鹿高専（電子情報工学科）箕浦弘人

数学部分：鈴鹿高専 安富真一

(1) 三次元グラフィックス

(2) 三次元位置計測

通信工学編 - 整数論、ガロア体

主担当：鈴鹿高専（電子情報工学科）吉川英機

数学部分：鈴鹿高専 堀江太郎

(1) 代数的符号とその復号法(1)

(2) 代数的符号とその復号法(2)

生物工学編 - 確率・統計

主担当：鈴鹿高専（生物応用化学科）中山浩伸

数学部分：岐阜高専 岡田章三，鈴鹿高専 堀江太郎

(1) 生物統計1 パラメトリックな検定

(2) 生物統計2 ノンパラメトリックな検定

物理化学編 - 微分・積分，微分方程式，三角関数

主担当：鈴鹿高専（材料工学科）和田憲幸

数学部分：岐阜高専 岡田章三，鈴鹿高専 長瀬治男

(1) 熱力学の基礎方程式とその応用

(2) シュレーディンガー方程式とその解(並進運動(1次元，3次元))

(3) シュレーディンガー方程式とその解(調和振動，回転運動)
(三角関数とそれらの公式，微分・積分，微分方程式)

材料工学編 - 微分方程式と関数

主担当：鈴鹿高専（材料工学科）兼松秀行

数学部分：鈴鹿高専 安富真一

(1) フィックの第一法則

(2) フィックの第二法則

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 講義のポイントを理解し，レポートに要点がわかりやすくまとめられている。
2. 疑問点を明確にし，レポートの中で，考察，資料調査がなされている。また，必要に応じてメール等により質疑応答ができる。

3. レポートにおいて，講義で紹介された内容、関連事項、応用について，学習がなされている。

[注意事項]

この科目は「単位互換を伴う実践型講義配信事業に係る単位互換協定」における単位互換科目として実施する。自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進めるので，日頃の勉強に力を入れること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 各学科の学科卒業程度の習得

[レポート等] 指定された期日及び方法で提出する。

教科書：実践工業数学（受講者に配布）

参考書：特になし。

[学業成績の評価方法および評価基準] 適宜レポートを提出する。提出レポート(100%)により学業成績を総合的に評価する。評価基準は、次のとおり。優(100~80点)、良(79~65点)、可(64~60点)、不可(59点以下)

[単位修得要件] 評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
構造設計学	平成18年度	埜 克己	専1	後期	2	必

[授業の目標]

機械や構造物などの部材の強度と変形を解析するための弾性力学の理論を学習する。 さらに、設計の基本的な考え方を修得することにより、構造設計学に興味を持てるようにする。

[授業の内容]

第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(B)
 <専門>〔JABEE基準1(1)(d)(1)〕に相当する。

- 第1週 材料の機械的性質、種々の荷重を受ける部材の強さ
- 第2週 応力の定義、任意方向の面に生ずる応力
- 第3週 主応力と最大せん断応力
- 第4週 ひずみの定義、ひずみと変位の関係、容積増加率
- 第5週 フックの法則、平衡方程式
- 第6週 ひずみの適合条件と境界条件
- 第7週 解の唯一性、弾性破損の法則(降伏条件)
- 第8週 中間試験

- 第9週 弾性学における初等問題(棒に重力が作用する場合)
- 第10週 弾性学における初等問題(はりの単純曲げ)、
サンプソンの原理
- 第11週 平面ひずみ、平面応力
- 第12週 応力関数と重調和方程式: 微分による式の簡単化、
Airyの提案、重調和方程式の誘導
- 第13週 弾性学の具体的な問題: 2次の応力関数、3次の応
力関数、例題演習
- 第14週 極座標による平面問題の解法: 応力関数の極座標に
よる表示、平衡方程式、ひずみの成分
- 第15週 軸対称問題における応力と変形

[この授業で習得する「知識・能力」]

- 1. 種々の荷重を受ける部材に生ずる内力と変形を把握する。
- 2. 応力とひずみの概念を理解する。
- 3. 物体内の任意の面に生ずる応力が求められる。
- 4. 主応力の値とその方向、および最大せん断応力が求められる。
- 5. フックの法則を用いて、3次元応力場で応力が計算できる。
- 6. 平衡方程式の誘導と計算ができる。
- 7. 適合条件の概念と誘導ができる。
- 8. 断面一様な棒に重力が作用する場合の棒の変形形状の誘導
が理解できる。
- 9. 単純曲げを受けるはりの変形形状の誘導が理解できる。
- 10. サンプソンの原理が理解できる。
- 11. 平面ひずみ、平面応力の理解と計算ができる。
- 12. 重調和方程式の誘導ができる。
- 13. 重調和関数と具体的問題が計算できる。
- 14. 極座標における重調和方程式への座標変換が計算できる。
- 15. 極座標による平面問題の平衡方程式、ひずみと変位の関係、
フックの法則が求められる。

[注意事項] 設計の基本概念としての弾性理論であるので、しっかり理解されたい。 数式の背景にある物理的意味をきちんと理解することが重要である。自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、演習課題を与えたりショートテストを行うので、日頃の勉強に努めること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 三角関数、微分・積分(重積分を含む)は十分に理解している必要がある。簡単な微分方程式と物理学における静力学の基礎を十分理解しているものとして講義を進める。

[レポート等] 理解を深めるため、演習課題を与える。

教科書: 「応用弾性学」 大久保 肇 著 (朝倉書店)
 参考書: 図書館に、弾性学、弾性力学に関する参考書は多数ある。

[学業成績の評価方法および評価基準] 適宜求めるレポートの提出をしていなければならない。後期中間・学年末の2回の試験結果を70%、レポートとショートテストの結果を合わせて30%として評価する。ただし、前期中間試験の得点が60点に満たない場合は再試験を行い、合格点の場合は60点とみなす。また、学年末の再試験は行わない。

[単位修得要件] 与えられた課題レポートを全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子機械工学実験	平成18年度	専攻科担当教員	専1	前期	1	必

[授業の目標]

他分野の技術を各自の専門領域に生かし、より発展させるために、他分野の実践的実験技術を体験し身に付ける。前期は化学に関する基礎的実験を行う。

[授業の内容]

全ての週の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎> <専門> [JABEE 学習・教育目標(c), (d)(2)b), (g), (h)] に対応する。

第1週 化学実験室での安全実験法の説明

第2～3週 水の分析

第4～6週 ガラス細工、白熱電球の作成細菌の培養

第7週 水の分析

第8～10週 理化教材の開発

第11～13週 香料の抽出

第12～13週 DNAの抽出

第14～15週 エタノールの生成

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 専門分野以外の分野の基礎的知識を自主的な学習により身に付けることができる。
2. 他分野の実験技術を体験し、その技術や考え方を理解できる。
3. 行った基本的な実験等について、目的、結果、考察をまとめレポートにすることができる。

[注意事項] 実験の計画、実施に当たっては、必ず指導教員に報告し、その指導に従うこと。器具、装置の使用に当たっては、指導教員から指示された注意事項を守ること。

[レポート等] 実験目的、成果、考察をまとめた報告書を指導教員に提出する。

教科書：実験中に自作のテキスト（実験手引き書）等を配布する。

[学業成績の評価方法および評価基準]

各自に課せられた実験操作・作業およびレポートにより学業成績を評価する。

[単位修得要件]

評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子機械工学実験	平成18年度	専攻科担当教員	専1	後期	1	必

[授業の目標]

他分野の技術を各自の専門領域に生かし、より発展させるために、他分野の実践的実験技術を体験し身に付ける。後期は情報技術に関する基礎的な実験を行う。

[授業の内容]

全ての週の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎> <専門> [JABEE 学習・教育目標(c), (d)(2)b), (g), (h)] に対応する。

第1週～第15週

PIC (周辺機器制御用 LSI) は、機器の制御、計測分野で幅広い応用が可能で、様々な技術分野の技術者にとってこの IC の利用技術を身に付けることは非常に有用である。この実験では、PIC の基礎から応用まで、実際の回路作成やプログラミングまで実践的にその応用について体得する。

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 専門分野以外の分野の基礎的知識を自主的な学習により身に付けることができる。
2. 他分野の実験技術を体験し、その技術や考え方を理解できる。
3. 行った基本的な実験等について、目的、結果、考察をまとめレポートにすることができる。

[注意事項] 実験の計画、実施に当たっては、必ず指導教員に報告し、その指導に従うこと。器具、装置の使用に当たっては、指導教員から指示された注意事項を守ること。

[レポート等] 実験目的、成果、考察をまとめた報告書を指導教員に提出する。

教科書：実験中に自作のテキスト（実験手引き書）等を配布する。

参考書：PIC 活用ガイドブック 後閑哲也 技術評論社

[学業成績の評価方法および評価基準]

各自に課せられた実験操作・作業およびレポートにより学業成績を評価する。

[単位修得要件]

評価結果が 60 点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
特別研究	平成18年度	電子機械工学専攻特別研究 指導教員	専1,2	通年	12	必

[授業の目標]

研究の遂行を通して、機械工学、電気電子工学や電子情報工学に関する高度な専門知識と実験技術を把握し、継続的・自主的に学習できる能力、或いは修得した知識をもとに創造性を発揮し、計画的に仕事ができる能力を持つ学生を育成する。また、論文作成や研究発表を通して、文章表現力、プレゼンテーション等のコミュニケーション能力を育成する。

[授業の内容]

全て学習・教育目標(A)<意欲>、(B)<展開>、(C)<発表>、(C)<英語>[JABEE 学習・教育目標(d)(2)b)c)d),(e),(f),(g),(h)]に対応する。

学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の指導の下に研究を行う。テーマの分野は次の通りである。

1. <機械工学> 機械力学, 材料力学, 計算力学, 有限要素法, 計算機援用工学, 弾性学, 熱力学, 熱工学, 流体工学, 気液混相流, 液体の微粒化, 精密工学, 機械工作法, 精密加工, 制御工学, 応力ひずみ解析, 真空工学等

2. <電気電子工学> 高電圧工学, 送配電工学, 電子工学, 電子回路, 電子物性, 放電物理, 固体電子工学, 集積回路工学, 情報科学, 知能情報学, ニューラルネットワーク, パターン認識, 画像処理工学, 制御工学, 電子線機器学等

3. <電子情報工学> 電子工学, 半導体デバイス, 情報電子回路, 電子計測, プラズマ理工学, 放電応用, 超真空工学, 電磁エネルギー工学, 情報制御システム, バイオロボティクス, 情報工学, 通信伝送工学, 通信符号理論, 自然言語処理, パーチャルリアリティ等

- ・ 専攻科1年生時に特別研究の中間発表会で、それまで行ってきた特別研究の内容を発表する。
- ・ 専攻科2年生の学年末時に特別研究論文を提出する。
- ・ また、専攻科2年生の学年末時に最終発表会で特別研究の発表を行う。

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 修得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自立的に学習できる。
2. 修得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進め、まとめることができる。
3. 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
4. 英語による基本的な意志伝達ができる。

[注意事項] 特別研究は学科で学んだ卒業研究に続いて行われるものであり、基本的には2年間或いは学科を含む3年間で1つのテーマに取り組むことになる。長期間に亘るのでしっかりと計画の下に自主的に研究を遂行する。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 研究テーマに関する周辺の基礎的事項についての知見、或いはレポート等による報告書作成に関する基礎的知識。

[レポート等] 理解を深めるため、適宜、関係論文、書物を与え、また、レポート等の課題を与える。

教科書：各指導教員に委ねる。

参考書：各指導教員に委ねる。

[学業成績の評価方法および評価基準]

特別研究成績評価表の配点にしたがって、特別研究論文(70%)、中間発表(14%)、最終発表(16%)で評価する。

[単位修得要件]

評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
流体力学特論	平成18年度	近藤 邦和	専1	後期	2	選

[授業の目標]

「流体力学特論」では、英語の教科書を参考にして、「静止流体」、「ベルヌーイの方程式」、「運動量の法則」について学習する。

[授業の内容]

以下の内容はすべて学習・教育目標 (B) < 専門 > および JABEE 基準 1 (1)(d)(2)a) に相当する項目である。

第1週 Pressure at a Point

第2週 Basic Equation for Pressure Field

第3週 Pressure Variation in a Fluid at Rest

第4週 Newton's Second Law

第5週 $F=ma$ Along a Streamline

第6週 英文での演習問題(1)

第7週 英文での演習問題(2)

第8週 中間試験

第9週 中間試験の解答と演習問題

第10週 Conservation of Mass The Continuity Equation

第11週 Derivation of the Linear Momentum Equation

第12週 Application of the Linear Momentum Equation

第13週 Derivation of the Moment-of-Momentum Equation

第14週 Application of the Moment-of-Momentum Equation

第15週 英文での演習問題(3)

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 静水力学について理解し、応用問題を解くことができる。

2. エネルギー保存の意味を理解し、ベルヌーイの方程式を説明できる。また、その応用問題を解くことができる。

3. 運動量の法則を理解し、問題に応用できる。

4. "Control Volume" の概念を理解できる。

5. 英語の専門用語が理解できる。

[注意事項]

数式の背景にある、物理的意味をきちんと理解することが重要である。授業は輪講形式で行うので、各自担当箇所を予習してくること。また単位制を前提とし、自宅での学習の時間を保証するための演習問題を課題とするので、次回までに必ず提出すること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 数学の微分・積分(重積分を含む)は十分に理解している必要がある。

[レポート等] 適宜、章末の演習問題を課題とする。

教科書：ノート講義

参考書："FUNDAMENTALS OF FLUID MECHANICS", Bruce R. Munson et. Al., (WILEY)

[学業成績の評価方法および評価基準]

適宜求める課題を提出していなければならない。中間試験と定期試験の2回の試験の平均点を80%、課題の評価を20%として評価する。ただし、再試験を実施する場合には、60点を上限として評価する。

[単位修得要件]

与えられた課題を全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
エネルギー移送論	平成18年度	佐脇 豊	専1	前期	2	選

[授業の目標]

エネルギー問題は今や世界の最大の関心事であり、エネルギー資源に乏しい我が国にとっては、将来にわたってのエネルギーの安定確保は地球の環境保全対策と相まって、極めて重要な課題である。長期的展望に立ち、種々のエネルギー形態を解明・検討し、新しいエネルギー形態、エネルギー形態間の変換原理と応用を総括的に把握・理解させる。

[授業の内容]

第1週 エネルギー資源 ((A)<視野> [JABEE 基準 1 (1)(a)])

第2週 エネルギーと社会

((A) <技術者倫理> [JABEE 基準 1 (1)(b)])

以降の項目は、すべて (B) <専門> [JABEE 基準 1 (1)(d)(2)a] に相当している。

第3週 熱力学の概説

第4週 熱通過および対流

第5週 沸騰、凝縮、輻射および熱交換

第6週 化石燃料の種類

第7週 熱機関の種類

第8週 中間試験

第9週 原子力エネルギー (核分裂)

第10週 地熱エネルギー

第11週 太陽エネルギー

第12週 水力エネルギー

第13週 風力、波力エネルギー

第14週 海洋熱エネルギー

第15週 原子力エネルギー (核融合)

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 一次エネルギーと二次エネルギーの概念を理解できる。
2. エネルギーの将来と環境との調和について説明できる。
3. 熱力学の第一法則、第二法則を説明できる。
4. 蒸気およびボイラについて説明ができる。
5. フーリエの法則が理解できる。
6. 熱通過の式が理解できる。
7. 対流の基本概念が理解できる。
8. 沸騰、凝縮、輻射および熱交換が理解できる。
9. 化石燃料の種類が説明できる。

10. 熱機関の種類が説明できる。
11. ランキンサイクルが説明できる。
12. 原子核反応、核分裂エネルギーが説明できる。
13. 原子炉の特性が説明できる。
14. 地熱エネルギーの概要が説明できる。
15. 太陽エネルギーの概要が説明できる。
16. 流体エネルギーの概要が説明できる。
17. 海洋熱エネルギーの概要が説明できる。
18. 核融合について説明できる。

[注意事項] 電子機械工学専攻においては、機械、電気、電子情報工学科などの出身者による複合学科の様相があるので、それぞれの出身以外の分野にまたがるエネルギー形態の勉強に関しては図書館等において、かなり自学・補習が必要である。自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出を求めするので、日頃の勉強に力を入れること。授業時間以外の質疑応答も適宜実施したい。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 本科で習得してきた基礎科目たとえば物理化学、応用物理、熱力学などで扱われた基礎的事項と関連させながら、エネルギー変換工学の原理・応用へと実用的問題に発展させていく。

[レポート等] 半期にエネルギー変換工学に関する最先端技術の項目を10～15項目あげて、その中の1テーマに関して、A4レポート用紙に10枚程度にまとめて、300語の英文アブストラクトを付けて提出する。

教科書：「エネルギー変換工学」西川 兼康・長谷川 修（理工学社）

参考書：エネルギー変換に関する参考書は国内、国外を問わず、数多く出版され、非常に初歩的なものからかなり高度なものまで容易に参照できる。

[学業成績の評価方法および評価基準]

適宜求めるレポートの提出をしていなければならない。前期中間および前期末試験の平均点を70%、レポート30%として評価する。ただし、再試験を実施する場合には、60点を上限として評価する。

[単位修得要件] 学業成績の評価方法によって、60点以上の評価を受けること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気理論特論	平成18年度	北村 登	専1	前期	2	選

<p>[授業の目標] 電気・電子工学分野における各種の技術や現象を理解するために必要な電気磁気学，電気回路に関する基本的理論を整理し、多面的・総合的な解析能力を養う。</p>	
<p>[授業の内容] (学習目標 B<専門>, JABEE(d)(2)a) に対応)</p> <p>第1週 ベクトル解析のまとめ 第2週 クーロンの法則 第3週 電界の強さ，演習問題 第4週 電束密度，ガウスの定理 第5週 ガウスの定理の応用，発散の定理 第6週 エネルギーと電位 第7週 演習問題 第8週 中間試験</p>	<p>第9週 電流と電流密度，導体 第10週 誘電体，静電容量 第11週 ビオ-サバルの法則，アンペアの周回積分の法則 第12週 回転，ストークスの定理 第13週 磁束と磁束密度，磁位とベクトルポテンシャル 第14週 磁性体，インダクタンス 第15週 ファラデーの法則，マクスウェルの方程式</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. ベクトル解析の基本的な事項が説明できる。 2. ベクトル解析の基本的な計算ができる。 3. クーロンの法則を説明でき，計算ができる。 4. ガウスの定理が説明できる 5. 電界に関する計算ができる。 6. 電位に関する計算ができる。</p>	<p>7. 電流・電流密度に関する計算ができる。 8. 導体・誘電体に関する事項の説明ができる。 9. 静電容量の説明できる。 10. 静電容量に関する計算ができる。 11. ビオ-サバルの法則を説明でき，計算ができる。 12. アンペアの周回積分の法則を説明でき，計算ができる。 13. ストークスの定理が説明できる 14. 磁束と磁束密度に関する計算ができる。 15. 磁位とベクトルポテンシャルに関する事項の説明ができる。 16. 磁性体，インダクタンスに関する事項の説明ができ，計算 ができる。 17. ファラデーの法則の説明できる。 18. マクスウェルの方程式の説明できる。</p>
<p>[注意事項] 電気磁気学・電気回路論は電気・電子工学の基本であり，自ら積極的にその理解を深めるよう努力することが望まれる。また，授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき進めるので，課題提出を求めたり小テストを行うなどして自己学習の成果に対する評価も実施するので，日頃の勉強を欠かさないこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 微分，積分，ベクトル，行列，行列式等の数学の基礎知識と電気磁気学，電気回路の基礎知識を修得していること。</p>	
<p>[レポート等] 授業の理解を深めるため，課題レポートなどを与えることもある。</p>	
<p>教科書：W. H. ヘイト著，山中・岡本・宇佐美訳，「工学系の基礎電磁気学」，朝倉書店 参考書：山口昌一郎著，「基礎電磁気学」，電気学会，小郷原著，小亀・石亀著，「基礎からの交流理論」，電気学会 その他，電気磁気学，電気回路に関する参考書は多数ある。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 中間試験・定期試験の2回の試験の平均点で評価する。中間試験においては再試験を実施する場合もある。その場合60点を上限として評価する。定期試験においては再試験を行わない。レポートや小テストを課した場合は，試験の結果を80%，レポートを10%，小テストの結果を10%で評価する。</p>	
<p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開設年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
制御機器工学	平成18年度	中野 荘	専1	後期	2	選

[授業の目標]

講義では、シーケンス制御について実際の回路例を中心に基礎から説明し、設計の概念を理解する。

[授業の内容]

(シーケンス制御と制御装置)

- 第1週 シーケンス制御とは:自動制御、フィードバック制御(B)
<専門> JABEE 基準(d)(2)a
- 第2週 シーケンス制御装置の種類:リレー、IC(B)<専門>
JABEE 基準(d)(2)a
- 第3週 有接点リレーによる制御装置(B)<専門> JABEE 基準
(d)(2)a
- 第4週 無接点リレーによる制御装置(B)<専門> JABEE 基準
(d)(2)a
- 第5週 ICによる制御装置(B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a
- 第6週 プログラマブルコントローラ(B)<専門> JABEE 基準
(d)(2)a
- 第7週 シーケンス制御入出力機器(B)<専門> JABEE 基準
(d)(2)a
- 第8週 中間試験

(論理代数と制御回路)

- 第9週 論理代数と論理回路について:論理回路、2値論理、基
本定理(B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a
- 第10週 シーケンス図の表し方の原則:制御記号、文字記号、
器具番号、端子番号、線番号(B)<専門> JABEE 基準
(d)(2)a
- 第11週 シーケンス図の書き方:図記号の位置、器具番号の位
置(B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a
- 第12週 各種回路の読み方:反転、直列、並列、自己保持、時
限回路(B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a
- 第13週 シーケンス回路の設計(B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a
- 第14週 モータの制御回路:正転、逆転、減電圧始動方法
(B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a
- 第15週 インタロック回路(B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a

[この授業で習得する「知識・能力」]

シーケンス制御と制御装置 (B)<専門> JABEE 基準
(d)(2)a >

1. 制御の概念をつかみ、その目的、制御内容、制御方法などを理解する。
2. 制御装置の種類を分類できる。
3. 有接点リレーの原理、構造、種類を理解する。
4. 無接点リレーの原理、構造、種類を理解する。
5. 入出力機器の種類と動作を理解する。

論理代数と制御回路 (B)<専門> JABEE 基準(d)(2)a

1. 論理代数の基礎及び基本定理を理解する。
2. シーケンス回路の表現方法を理解する。
3. シーケンス図の書き方、表し方を覚える。
4. 接点の動き及び読み方を理解する。
5. シーケンス回路の設計方法の概要をつかむ。
6. 各種モータの制御回路、インタロック回路の必要性について理解する。

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出を求めたりショートテストを行うので、日頃の勉強に力を入れること。ある程度回路を読むことができ、簡単な回路であれば設計できる程度のレベルを授業の目標に置く。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 自動制御、電気・電子回路及びデジタル回路の基礎知識が必要である

[レポート等] 演習問題などについて、必要に応じレポートとして課題を課すことがある。各自、参考書などを使って独自に調査し、結果を詳細に報告すること。また、小テストも実施する場合もある。

教科書: ノート講義、配布プリントをし使用。

参考書: 「シーケンス制御のしくみ 上、下」 青木正夫著 (技術評論社)
「シーケンス制御技術」 小野孝治 他著 (産業図書)

[学業成績の評価方法および評価基準] 中間試験・期末試験の2回の試験の平均点で評価する。中間試験においては再試験を実施する場合もある。その場合60点を上限として評価する。期末試験においては再試験を行わない。レポート・小テスト・宿題を課した場合は、学業成績の20%を上限として評価に組み入れることがある。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
マイクロプロセス工学	平成18年度	北村 登	専1	後期	2	選

[授業の目標] 技術の多くの分野において重要な役割を果たしつつある微細加工技術に関する基礎知識を得るとともに、具体的な各種加工技術および応用例についても理解する。微細加工の必要性、考え方などからはじめ、リソグラフィー、エッチング、ドーピング、成膜技術などの具体的な技術の基本原則を理解し、将来開発されるであろう技術に充分対応できる基礎知識を修得することを目的とする。

<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(B)〈専門〉およびJABEE基準1(1)(d)(2)a)に対応する。</p> <p>第1週 オリエンテーション、回路素子の小型化と集積化</p> <p>第2週 半導体集積回路製造技術の進歩・動向、設計工程(回路設計、レイアウト設計)</p> <p>第3週 製造環境(クリーンルーム、純水)</p> <p>第4週 ウェハ製造工程、フォトリソグラフィ</p> <p>第5週 ウェハ前工程のフロー、洗浄</p> <p>第6週 酸化</p> <p>第7週 前半まとめおよびテスト</p>	<p>第8週 不純物ドーピング(気相拡散法)</p> <p>第9週 不純物ドーピング(固相拡散法)</p> <p>第10週 不純物ドーピング(イオン注入法)</p> <p>第11週 フォトリソグラフィ</p> <p>第12週 エッチング</p> <p>第13週 CVD</p> <p>第14週 組み立て工程、検査工程</p> <p>第15週 まとめおよび演習問題</p>
---	---

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 集積化に関する基礎事項を理解し、説明できる。</p> <p>2. 半導体集積回路製作の一連の流れを理解し、説明できる。</p> <p>3. LSI製造の各工程を理解し、必要な計算ができる。</p>	<p>4. 不純物ドーピングの各種方式について理解し、必要な計算ができる。</p> <p>5. エッチング技術について理解し、説明できる。</p> <p>6. 各種成膜技術について理解し、必要な計算ができる。</p>
--	--

[注意事項] マイクロプロセスは現在、非常に広い分野で応用されつつある技術である。その中でも半導体材料に対する微細加工技術は、最も進んでいるものといえる。授業ではその半導体微細加工技術のひとつの流れを知ることによって重点をおいている。したがって、授業では取り上げることができない分野での技術等については各自参考文献などを基に学習してもらいたい。

また、授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき進めるので、課題提出を求めたり小テストを行うなどして自己学習の成果に対する評価も実施するので、日頃の勉強を欠かさないこと。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 物理および化学に対する基本的な知識。授業では主として半導体技術を取り上げるので、半導体デバイスに関する基礎知識があることが望ましい。「機能素子工学」との関係が深い。

[レポート等] 適宜、課題を与えレポート提出を課すこともある。

教科書：前田和夫著、「はじめての半導体プロセス」、工業調査会
 参考書：中野・星野・小松共著、「微細加工」、東京電機大学出版局、
 古川・浅野共著、「超微細加工入門」、オーム社 その他各種加工技術個別の参考書もある。

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間試験・定期試験の2回の試験の平均点で評価する。中間試験においては再試験を実施する場合もある。その場合60点を上限として評価する。定期試験においては再試験を行わない。レポートや小テストを課した場合は、試験の結果を80%、レポートを10%、小テストの結果を10%で評価する。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
表面工学	平成 18 年度	打田元美	専 1	前期	2	選

[授業の目標]

各種の機械構造物はその要素間の接触により成り立っている。本講義においてこの要素間の相対運動に生じる現象を取り扱い、その状態を知ることにより、各種機器において高性能化、高信頼性さらに耐久性を革命的に向上させることができることを学ぶことにより設計・開発技術者あるいは生産技術者として必要な事項を習得する。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標(B) <専門> および JABEE1(1)(d)(2)a)に対応する。

第 1 週 授業の概要

(表面) 材料の表面

第 2 週 加工面の種類の特徴

第 3 週 表面の評価方法

(摩耗と摩擦)

第 4 週 摩耗について

第 5 週 アブレシブ摩耗

第 6 週 腐食摩耗

第 7 週 破壊による摩耗

第 8 週 摩擦について

第 9 週 摩擦面の破壊現象

(接触問題)

第 10 週 ヘルツ接触理論

第 11 週 接触点の形成

第 12 週 表面下の応力場

(潤滑)

第 13 週 潤滑について

第 14 週 潤滑剤の種類とその特徴

第 15 週 パイオトライボロジーの現状

[到達目標] (この授業で習得すべき知識・能力)

(表面)

1. 基礎的な加工表面について説明できる。
2. 材料の接触における親和性について説明できる。
3. 表面粗さ形状測定について簡単に説明できる。

(摩耗と摩擦)

1. 摩耗の種類について説明することができる。
2. 摩耗と摩擦を理解しこれの原因を説明できる。
3. 摩耗と摩擦の防止方法について説明できる。

(接触問題)

4. 接触圧力による金属表面の塑性流動の説明ができる。
5. ヘルツの接触圧を簡単に説明できる。
6. 接触圧の分布測定について説明できる。

(潤滑)

1. 潤滑剤の役割について説明できる。
2. 液体および個体潤滑剤について説明できる。
3. 医療におけるトライボロジーの応用について説明できる。

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出を求めたりシヨ - トテストを行うので、日頃の勉強に力を入れること。対象が工学全分野にわたり行うため、積極的な取り組みを期待する。疑問が生じたら直ちに質問すること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 数学、物理は理解している必要がある。

[レポート等] 理解を深めるため、随時、演習課題を与える。

教科書：「超精密加工学」 丸井悦男 (コロナ社)

参考書：授業時に参考プリント配布

[学業成績の評価方法および評価基準]

適宜求めるレポ - トの提出をしていなければならない。前期中間、前期末の 2 回の試験の平均点を 60%、課題の評価を 20%、シヨ - トテストを 20%として評価する。ただし、前期中間試験の得点が 60 点に満たない場合は、補講の受講やレポ - ト提出等の後、再テストにより再度評価し、先の試験の得点を 60 点と見なす。

[単位修得要件] 学業成績で 60 点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
複合材料工学	平成18年度	民秋 実	専1	後期	2	選

<p>[授業の目標]</p> <p>代表的な複合材料であるガラス繊維強化プラスチックについて、その力学的特性、強度計算、使用方法について学習する。</p>	
<p>[授業の内容] 第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標 (B) < 専門 > (JABEE 基準 1(1)(d)(2)a)に対応する</p> <p>第1週 複合材料の特質</p> <p>第2週 棒の引張り (応力とひずみ・フックの法則)</p> <p>第3週 複合材料棒のヤング率</p> <p>第4週 強さの複合則</p> <p>第5週 はりのせん断力と曲げモーメント</p> <p>第6週 複合材料の曲げ剛性</p> <p>第7週 はりのたわみ</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 薄板に作用する応力</p> <p>第10週 応力の座標変換</p> <p>第11週 直交異方性板</p> <p>第12週 実験による弾性定数の求め方</p> <p>第13週 積層板の面内剛性</p> <p>第14週 積層板の応力 - ひずみ関係</p> <p>第15週 複合材料の接合</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 複合材料について説明できる。</p> <p>2. 応力とひずみについて説明、計算ができる。</p> <p>3. フックの法則について説明ができる。</p> <p>4. 複合材料棒のヤング率を計算することができる。</p> <p>5. せん断力と曲げモーメントについて、説明、計算ができる。</p> <p>6. 複合材料の曲げ剛性を求めることができる。</p> <p>7. はりのたわみを計算できる。</p>	<p>7. 応力の座標変換が行える。</p> <p>8. 直交異方性板の材料特性を計算できる。</p> <p>9. 実験により弾性定数を求めることができる。</p> <p>10. 積層板の面内応力問題を計算できる。</p> <p>11. 積層板の応力 - ひずみ関係を計算できる。</p> <p>12. 複合材料の接合について説明できる。</p>
<p>[注意事項] 自己学習を前提とした単位制に基づく授業を進めるため、課題提出や小テストを行うので、関数電卓を用意し、日頃の予習復習に力を入れること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 材料力学は十分に理解している必要がある。</p>	
<p>[レポート等] 理解を深めるため、適宜、演習課題を与える。</p>	
<p>教科書：「複合材料の力学序説」 福田博，邊吾一（古今書院）</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 後期中間・学年末の2回の試験の平均点を全体評価の80%とする。ただし後期中間において60点に達していない場合には、それを補うための補講に参加し、再試験により該当する試験の成績を上回った場合には60点を上限として評価する。残りの20%については講義中に行う小テストの結果で評価する。</p> <p>[単位修得要件] 与えられた演習課題を全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	科目コード	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
応用電子回路論	平成18年度	近藤 一之	専1	後期	2	選

[授業の目標]

電子回路の理解を深めるために、素子値等に具体的な数値を与え、電子回路の解析と設計に関する演習を中心に、これらを用いる能力を養う。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標(B)〈専門〉およびJABEE基準1(1)(d)(2)a)に対応する

増幅回路の基礎

- 第1週 応用電子回路はどのようなことを学ぶ科目であり、どのように社会に役立っているか(A)〈倫理〉、 pnp 形トランジスタと npn 形トランジスタ、増幅の原理
- 第2週 基本増幅回路(静特性曲線、負荷直線の引き方、動作点)、増幅度(利得のdB表記)
- 第3週 h パラメータと等価回路
- 第4週 基本増幅回路の増幅度と入・出力インピーダンス、増幅回路の分類
- 第5週 演習
バイアス回路
- 第6週 バイアスの必要性、バイアス回路の種類と特徴(固定バイアス、自己バイアス、電流帰還バイアス)、安定指数、コレクタ遮断電流

第7週 演習

低周波小信号増幅回路

- 第8週 CR結合増幅回路の基本、最適動作点の求め方
- 第9週 周波数特性とコンデンサ、2段CR結合増幅回路
- 第10週 エミッタフォロワ増幅回路、演習問題
負帰還増幅回路
- 第11週 負帰還増幅回路の原理、負帰還増幅回路の特徴
- 第12週 負帰還増幅回路の実際、二重負帰還増幅回路
FET増幅回路
- 第13週 FETの基礎、FET増幅回路の基本(接地方式、CR結合増幅回路)
- 第14週 FETのバイアス回路、FET増幅回路の周波数特性
IC増幅回路
- 第15週 差動増幅回路の基本、演算増幅器の原理、演算増幅器の応用

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. トランジスタ増幅回路の基本事項(静特性曲線、負荷直線の引き方、動作点)を理解する。
2. dBについて理解し、計算ができること。
3. h パラメータを用いたトランジスタの等価回路について理解する。
4. 入出力インピーダンス、電圧増幅度、電流増幅度、電力増幅度の求め方を理解する。
5. トランジスタのバイアス回路について理解する。

6. CR結合増幅回路について、小信号等価回路が書けること。
7. 小信号等価回路を使ってCR結合増幅回路を解析する能力を身につける。
8. CR2段結合増幅回路の解析ができること。
9. 負帰還をかけることの得失について理解すること。
10. FETの構造と動作を理解すること。
11. FET増幅回路の等価回路を理解し、これを用いて回路の解析ができること。
12. 演算増幅器の原理を理解し、応用回路の解析ができること。

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進める。各自で教科書の演習問題を復習として解くこと。数多くの問題に取り組むことが、実力をつけるための一番の近道である。この復習を確認する意味で2週に1回程度、小テストを行う。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 学科で履修した電子回路の基本事項を理解していることが望ましい。

[レポート等] 理解を深めるため、毎回、演習課題を与える。

教科書：「アナログ回路の基礎演習()」 高木宣昭、竹内守、佐野敏一共著 オーム社

参考書：「インターユニバーシティ電子回路A」 藤原 修編著(オーム社)

[学業成績の評価方法および評価基準]

学年末試験の結果を50%、小テストの結果の合計を50%として100点満点で評価する。ただし、各小テストにおいて6割を達成できない場合に、それを補う為の再試験については6割を上限として評価する。学年末試験においては再試験を行わない。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	科目コード	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
非破壊検査工学	平成18年度	末次 正寛	専1	前期	2	選

[授業の目標]

実際の生産現場において問題となる材料欠陥について認識し、それらが構造物の破壊強度へ及ぼす影響を理解するとともに、材料あるいは機械構造物中に存在する種々の欠陥を非破壊的に検出する評価手法について学ぶ。さらに、検出された欠陥に対する強度評価法についても、その概略を理解する。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標 (B) < 専門 > および JABEE 基準基準 1 (1)(d)(2)a) に対応する。

第1週 非破壊検査・非破壊評価の概略

第2週 資格認定制度について

第3週 材料・構造物中に存在する欠陥について

第4週 欠陥が材料強度へ及ぼす影響

第5週 き裂材に関する破壊力学的考察

第6週 き裂材の余寿命評価

第7週 放射線透過試験の概要

第8週 放射線透過試験の実際

第9週 超音波探傷試験の概要

第10週 超音波探傷試験の実際

第11週 超音波探傷試験の応用 (可視化手法の理論と実際)

第12週 表面探傷試験法の概要

第13週 表面探傷試験法の実際

第14週 表面探傷試験 (浸透探傷試験・磁粉探傷試験) の実際

第15週 応力ひずみ解析の概要

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 非破壊検査の重要性と概要を把握し、認定制度について理解する。
2. 材料中に存在し得る欠陥の種類を把握し、強度へ与える影響について理解する。
3. 機械構造物の破壊に対する評価法についての知識を得る。
4. 放射線透過試験による非破壊検査法の概要を把握し、現状を理解する。

5. 超音波探傷試験法の概要を把握する。
6. 音波探傷試験法の実際を理解し、超音波の幅広い応用面についての知識を得る。
7. 磁気・渦流探傷法・サーモグラフィック法や浸透探傷等の表面探傷法についての概要を把握する。
8. 実際の応力ひずみ測定法についての概要を理解し、応用できる。

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出を求めたり小テストを行なうので、日頃の学習に力を入れること。実際の工業現場で使用されている手法を中心に紹介する。各自興味を持って産業新聞等で情報を集めたり資格制度を調べると良い。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

三角関数と初等関数の微分積分、ならびに材料力学の基礎等。理解に必要なことがらは適宜補足する。

[レポート等]

代表的な演習問題を順次板書で発表する。また、小問題、小テストを随時行うので、必ず提出すること。可能な手法についてはデモンストレーションを行うので、レポートを提出する。

教科書：「非破壊評価工学」 (社) 日本非破壊検査協会編 (日本非破壊検査協会)

参考書：「非破壊検査工学」 石井勇五郎著 (産報出版) 他

[学業成績の評価方法および評価基準]

適宜求めるレポートの提出をしていなければならない。中間試験、期末試験の2回の試験の平均点を60%、課題の評価を20%、小テストを20%として評価する。ただし、中間試験の得点が60点に満たない場合は再試験を実施する場合があるが、この場合は60点を上限として評価する。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報通信工学	平成18年度	吉川 英機	専1	前期	2	選

[授業の目標]

現代の情報通信技術を理解するために、有線、無線伝送に関する基礎的事項を学習して、応用問題解決能力を養うとともに、陸上無線技術士に必要な能力を習得する。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標（B）＜専門＞、および JABEE 基準 1(1)(d)(2)a) に対応する

- 第1週 序説、インピーダンス整合回路
- 第2週 分布定数線路の解析
- 第3週 分布定数線路の解析（つづき）
- 第4週 分布定数線路の応用
- 第5週 スミスチャート
- 第6週 電磁波と反射
- 第7週 アンテナの基礎
- 第8週 アンテナの実際

第9週 アンテナの実際（つづき）

第10週 電波伝搬

第11週 電波伝搬（つづき）

第12週 レーダの概要

以下の内容は、JABEE 基準 1 (d) (2) d) にも対応する。

第13週 電波法

第14週 電波法（つづき）

第15週 電波法（つづき）

[この授業で習得する「知識・能力」]

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 高周波回路（集中定数）の回路計算ができる。 2. 高周波回路（分布定数）の回路計算ができる。 3. スミスチャートを用いた高周波回路の設計の概要を理解している。 4. 各種ケーブルの特徴を理解し、基本的な伝送線路の回路計算ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 5. ダイポールアンテナ、半波長アンテナを理解し、基本的定数の計算ができる。 6. 各種アンテナの概要を説明できる。 7. 電波伝搬の基本特性を理解している。 8. レーダーの概要を説明できる。 9. 陸上無線技術士として必要な電波法について説明できる |
|--|--|

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進めるので、日頃の勉強に力を入れること。本科で学習してきた数学、および電気系の基礎科目については理解しているものとして講義を行うので、必要事項はあらかじめ復習しておくこと。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 三角関数、微分と積分、電磁気学、電気回路

[レポート等] 適宜、演習課題を与え、それに対するレポート提出を求める。また、不定期に小テストを行う。

教科書： 「基礎電気電子工学シリーズ14 電波工学」安達、佐藤（森北出版）

参考書： 「無線工学A 無線機器」、「無線工学B アンテナ系及び電波伝搬」（電気通信振興会）

「電波法要説」（電気通信振興会）

「第2級陸上無線技術士」（電気通信振興会）

[学業成績の評価方法および評価基準]

前期中間、学年末の試験の平均点を80%、適宜与える課題（レポート）提出と小テストを20%で評価する。ただし、前期中間試験の得点が60点に満たない場合は、補講の受講やレポート提出等の後、再テストにより再度評価し、合格点の場合は先の試験の得点を60点と見なす。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
デジタル通信システム	平成18年度	吉川 英機	専1	後期	2	選

[授業の目標]

技術の進展が著しいデジタル通信技術を理解するために、変復調方式、無線機器、陸上固定通信、衛星通信、移動通信に関わる技術について学習するとともに、応用問題解決能力を養う。また、陸上無線技術士や電気通信技主技術者に必要となる能力を習得する。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(B)〈専門〉。および JABEE 基準 1 (1)(d)(2)a)に対応する

第 1 週 序論、電波の基本特性

第 2 週 衛星・移動通信の電波伝搬

第 3 週 基本デジタル変調方式と検波方式

第 4 週 基本デジタル変調方式と検波方式(つづき)

第 5 週 高度な変復調技術、マルチプルアクセス

第 6 週 鏡面アンテナ、基本パラメータ

第 7 週 送信機、受信機の概要

第 8 週 陸上無線通信の概要

第 9 週 衛星通信の概要

第 10 週 衛星通信の概要(つづき)

第 11 週 移動通信の概要

第 12 週 移動通信の概要(つづき)

第 13 週 テレビジョン

以下の内容は、JABEE 基準 1 (d)(2)d)にも対応する。

第 14 週 電波法と電気通信事業法の概要

第 15 週 電波法と電気通信事業法の概要(つづき)

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 電波伝搬の基本特性を理解し、各伝送路における電波伝搬の特徴やフェージングについて説明できる。
2. デジタル変復調方式と検波方式の原理を理解し、各方式の特徴を説明できる。また、ビット誤り率の計算ができる。
3. スペクトル拡散通信、マルチプルアクセスの実現方法について理解し、原理と特徴を説明できる。

4. 無線機器の概要を理解し、応用問題を解くことができる。
5. 陸上無線通信の概要を理解している。
6. 衛星通信の概要を理解している。
7. 移動通信の概要を理解している。
8. テレビジョン放送の概要を理解している。
9. 電波法と電気通信事業法の概要を説明できる。

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進めるので、日頃の勉強に力を入れること。

デジタル通信技術はデジタル放送や、携帯電話などと直接関わっており、非常に身近な技術である。これらの通信システムを支える基礎事項について学ぶことは通信に関する先端技術を理解する一助となるので、ぜひ興味をもって臨んでもらいたい。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 三角関数、微分と積分、フーリエ級数、確率統計、電磁気学、電気回路、電子回路

[レポート等] 適宜、演習課題を与え、それに対するレポート提出を求める。また、不定期に小テストを行う。

教科書：「無線・衛星・移動体通信」初田、小園、鈴木(丸善)

参考書：「電波法要説」(電気通信振興会)

「移動通信」 笹岡秀一 編著 (オーム社)

「通信方式」 滑川、奥井 (森北出版)

「第2級陸上無線技術士」(電気通信振興会)

[学業成績の評価方法および評価基準]

後期中間、学年末の試験の平均点を80%、適宜与える課題(レポート)提出と小テストを20%で評価する。ただし、後期中間試験の得点が60点に満たない場合は、補講の受講やレポート提出等の後、再テストにより再度評価し、合格点の場合は先の試験の得点を60点と見なす。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
技術英語	平成18年度	林 浩士	専2	後期	1	必

[授業の目標] ニュース記事と写真を題材とする英文テキストに沿って英語表現を学習すると同時に、社会、経済、文化などに関する情報に広く目を向けて話題を蓄積し、技術者として必要なコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。

[授業の内容] 全ての週の内容は、学習・教育目標(A)<視野>(C)<英語>および JABEE 基準 1(1)(f)の項目に相当する 第1週 Introduction (ガイダンス: 効果的な学習の進め方) 第2週 Unit 1: Able 題材: パラリンピックの現状 語法: 受動態の用法 第3週 Unit 2: Rich 題材: チョコレート生産の歴史 語法: 比較 / 関係詞 第4週 Unit 3: Afraid 題材: 死刑制度の是非 語法: 関係詞 / 動名詞 / to 不定詞 第5週 Unit 4: Tall 題材: 身長に関する研究 語法: 現在完了形 / 過去完了形 / 助動詞 第6週 Unit 5: Pure 題材: 水と環境 語法: 名詞節 第7週 Unit 6: Warm 題材: 地球温暖化 語法: 前置詞 / 接続詞	第8週 前半のまとめテスト(中間試験) 第9週 Unit 7: Talkative 題材: 言葉とコミュニケーション 語法: 副詞節 第10週 Unit 8: Hairy 題材: ファッションの社会学 語法: 現在完了形 / 過去完了形 第11週 Unit 9: Strong 題材: スポーツにおける女性の躍進 語法: 前置詞(位置関係、方向) 第12週 Unit 10: Harmful 題材: 昆虫と地球環境 語法: 加算・不可算 / 最上級 第13週 Unit 11: Merry 題材: クリスマスにまつわる歴史 語法: S-V-O-Oの文をつくる動詞 第14週 Unit 12: Famous 題材: サッカーの歴史 語法: to 不定詞 / 分詞 第15週 後半のまとめ
--	---

[この授業で習得すべき[知識・能力]]

- 各ユニットで取り上げられる英文記事の概要を理解できる。
(A)<視野>、C<英語>
- 各ユニットで取り上げられる英文記事を適切な語彙を選んで要約、または部分的に rewrite できる。 C<英語>
- 各ユニットの内容に関する英問に対して、適切な表現で答えることができる。 C<英語>

- 各ユニットに出てくる単語・熟語の意味および慣用表現が理解できる。 C<英語>
- 各ユニットに含まれる語法、英語表現のいくつかを応用して適切な英語表現ができる。 C<英語>
- 既習の英文を、内容が伝わる程度に朗読できる。 C<英語>

[注意事項] 単位制を前提として、自主的学習成果を学力診断小テストなどで授業時に確認することがあるので、付属のCD-ROMを活用し計画的に自主学習を進めるよう努力すること。また、テキスト以外でも自ら進んで多くの英語に触れること。参考書「速読英単語」は一斉購入しないが、語彙増強を図りたい場合に積極的利用を推奨する。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] TOEIC350点レベル以上の英語運用能力および語彙

[レポート等] 授業内容と関連した課題、レポートを課すことがある。

[教科書] *Time to Train Yourself* (成美堂)

[参考書] 速読英単語<必修編>(増進会出版社)

[学業成績の評価方法および評価基準]

前期中間、前期末の2回の試験の平均点を70%、課題(レポート)・小テスト等の結果を30%とし、その合計点で評価する。ただし、前半(前期中間試験まで)の成績で60点に達していない学生には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語総合	平成18年度	Mike Lawson	専2	前期	1	必

[授業の目標]

Basing class activities on various cross-cultural themes, the objective of this course is to improve students' practical levels of reading and listening comprehension and their abilities to converse in English.

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標(A) < 視野 >
[JABEE 基準 1(1)(a)]および(C) < 英語 > [JABEE 基準 1(1)(f)]
に対応する。

Week

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | Introduction to the course |
| 2 | Unit 13—The secret of success |
| 3 | Unit 14—So you want to be famous |
| 4 | Unit 15—Is money the answer? |
| 5 | Unit 17—Incredible journeys |
| 6 | Unit 18—The world is not enough |
| 7 | REVIEW |
| 8 | MIDTERM EXAM |

Week

- | | |
|----|----------------------------------|
| 09 | Unit 19—We do things differently |
| 10 | Unit 20—Language puzzle |
| 11 | Unit 21—Let's celebrate! |
| 12 | Unit 22—No place like home |
| 13 | Unit 23—Changing lifestyles |
| 14 | Unit 24—Fighting the future |
| 15 | REVIEW |

[この授業で習得する「知識・能力」]

At a level suited for second year advanced students, students will:

1. Improve their practical level of reading comprehension;
2. Improve their practical level of listening comprehension;

3. And will improve their ability to converse in English.

Students will develop their reading, listening and speaking skills from a cross-cultural context, with an emphasis on Western culture.

[注意事項]

1. Please visit my website (under construction) for information related to English learning.
2. Please visit our Internet website "English-Muscle" at <http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/engcom/> for fun English-learning activities.
3. You may contact me at any time at either of the two following email address:
lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp, suzuka11@hushmail.com.

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

A good command of basic English syntax; a practical level of reading and listening comprehension, and some ability to converse in English.

[レポート等]

教科書 : **Text:** Craven, Miles. *Reading Keys (Bronze, Book B)*. Macmillan Languagehouse.

参考書 : **Subtext:** A Japanese-English dictionary and an English grammar guide. Material as distributed in class.

[学業成績の評価方法および評価基準] 25% Midterm exam, 25% Final Exam, 25% Essays, 25% Homework

[単位修得要件] Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.

授業科目名	開設年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
国際関係論	平成18年度	益田 実	2	後期	2	必

[授業の目標]

国際的な視点で物事を考える能力を身につけ、自国や自民族だけの文化や価値観にとどまらず、世界に存在する他国や他民族の立場から物事を考える能力を身につける。そのために基本的には民族をそれぞれその構成母体とする国家群から形成される近現代の国際社会のシステムが発展してきた歴史のプロセスを広くグローバルな観点から理解することを目標とする。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標(A)〈視野〉と、JABEE 基準 1 (1)(a)に対応する。

- 第1週 近代国際関係の基礎としての近代の民族（ネーション）概念の重要性の認識。
- 第2週 民族（ネーション）を現に目の前にあるものとして考える比較的、"static"な諸議論の紹介と検討、整理。
- 第3週 上記と同じ内容。
- 第4週 上記と同じ内容。
- 第5週 民族（ネーション）の歴史的発展過程に注目した、より"dynamic"な諸定義の紹介と検討、整理。
- 第6週 上記と同じ内容。
- 第7週 上記と同じ内容。
- 第8週 総合的に得られる疑問点の整理。中間的まとめ。

- 第9週 現時点で最も説得力を持つと思われる近代国際社会の民族問題研究の紹介その1（アーネスト・ゲルナーの議論）
- 第10週 上記と同じ内容。
- 第11週 上記と同じ内容。
- 第12週 現時点で最も説得力を持つと思われる近代国際社会の民族問題研究の紹介その2（ベネディクト・アンダソンの議論）
- 第13週 上記と同じ内容。
- 第14週 これまでの議論のまとめ。
- 第15週 民族（ネーション）を単位とする国際関係のありかたの将来像について。

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 民族を構成単位とする近代国際社会の歴史的特殊性の理解。
2. そのような国際社会が形成されるに至った要因の理解。
3. そのような国際社会における民族間の相互理解はいかにして行われ得るかの理解。

4. 民族形成の多様なありかたの理解。
5. 日本の近代国際社会内での位置についての理解。
6. 民族を基礎とする国際社会の変容の可能性の理解。

[注意事項] 国際社会における民族問題は、形式も多様でありまた事例も豊富である。また古い問題でもあるが今なお継続する問題でもある。異なる民族に属することがなぜ多くの問題をもたらすのかを理解することにより、そのような問題を回避し、国境や民族の壁を乗り越えた相互理解のために何が必要かを考えてほしい。授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進める。授業中参考書や必読書を紹介するので、その都度目を通してから授業を受けるのが望ましい。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

近代史一般についてのごく初歩的な知識。日々の国際問題についてのメディアでの報道内容についての知識。

[レポート等] 特に課さない。

教科書： 特に指定しない。毎回、プリントの形で講義資料を印刷配布する。

参考書： 特に購入する必要はないが、入手しやすくかつ一読の価値があると思われるものについては講義の中で随時、指摘する。

[学業成績の評価方法および評価基準]

定期試験の点数で評価する。60点に満たない場合は、レポート等を考慮して、上限60点で評価する。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開設年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
経営学	平成18年度	渡邊 明	専2	後期	2	選

[授業の目標] 企業間ネットワークを結び、異なる企業があたかも一つの企業のように戦略的に連携して活動することで、業務プロセスのリードタイムを抜本的に短縮することが可能になったと言われる。そこでの結びつきは戦略的提携とよばれ、SCM (Supply Chain Management) が流通に関する戦略的部分最適を追求するものとして認識され始めている。そこで最近研究が深化してきた SCM、ERP、Logistics Cost 等々を分かり易く解説することを本講義の目的としている。

[授業の内容] 全体の週において、経営学の学習・教育目標 (A) (視野) と、JABEE (1)(a)項目に該当する内容を講義する。

第1週 ガイダンス 企業間ネットワークとは
 第2週 サプライチェーンの本質とは何か
 第3週 モジュール生産とインターネット
 第4週 全体最適と部分最適及び戦略的部分最適
 第5週 サプライチェーンの具体例 (事例研究)
 第6週 サプライチェーンの具体例 (事例研究)
 第8週 中間試験

第9週 ERP とは何か
 第10週 ERP の具体例 (事例研究)
 第11週 ERP の具体例 (事例研究)
 第12週 Logistics Cost とは何か
 第13週 Logistics Cost の具体例 (事例研究)
 第14週 Logistics Cost の具体例 (事例研究)
 第15週 最終試験

[この授業で習得すべき知識・能力]

1. 企業戦略とは何かを理解する
2. 企業経営のパラダイム変化とは何かを理解する
3. 流通とは何かを理解する
4. 流通マネジメントとは何かを理解する

5. 企業間ネットワークとは何かを理解する
6. 企業経営における時代区分の重要性を理解する

[注意事項] 経営学は、インターネットの発展と共に急速に変化している、教科書に記述されていることが、必ずしも現実を分析する手段にならない場合も多くなっている。講義は教科書を中心に説明を行うが、適宜最近の話題についての資料を印刷し配布する。現在どんな問題点があり今後どのような方向に社会が進むかを読む力を、是非養ってほしい。授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進める。授業中参考書や必読書を紹介するので、その都度目を通してから授業を受けるのが望ましい。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 日経産業新聞は読んでほしい。

[レポート等] なるべくレポートは、多く出したいと思います。

[学業成績の評価方法] 定期試験、中間試験を50点、レポートを50点で評価する。合計点が60点に達しないものについては、レポート等を考慮して60点を上限として評価する。

[単位修得要件] 修得すべき知識・能力の60%を達成することが必要である。

授業科目名	開設年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
コミュニケーション論	2006	平井 聡子	専2	後期	2	選
<p>[授業の目標]</p> <p>コミュニケーション能力の大切さを学び、友人間でもグローバル社会でも役に立つ“異文化”コミュニケーション術を習得し、パブリックスピーキング力、プレゼンテーション力も高める。実例をできるだけ用いて楽しく且つ効率的に学び、生徒が興味をもてるように講義する。</p>						
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標（A）の<視野><意欲>、および（C）<発表>とJABEE 基準1（1）（f）に対応する。</p> <p>第1週 コミュニケーション力とは何か</p> <p>第2週 言語コミュニケーション</p> <p>第3週 非言語コミュニケーション</p> <p>第4週 ソーシャルスキル</p> <p>第5週 コミュニケーションの実践（1） （話し方、聴き方、質問の仕方）</p> <p>第6週 コミュニケーションの実践（2） （クリエイティブな対話・会話法）</p> <p>第7週 ディベート</p> <p>第8週 中間試験</p>			<p>第9週 日米間異文化コミュニケーション（1）：トラブルの元とは</p> <p>第10週 日米間異文化コミュニケーション（2）旅行、留学、ビジネスの場で</p> <p>第11週 対人コミュニケーション（1）（1対1）</p> <p>第12週 対人コミュニケーション（2）（大小のグループ間）</p> <p>第13週 プレゼンテーション（1）</p> <p>第14週 プレゼンテーション（2）</p> <p>第15週 まとめ</p>			
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1．なぜコミュニケーション力が大事かを理解する。</p> <p>2．コミュニケーションの多面性を学び、テクニックを習得する。</p>			<p>3．グローバルスタンダードと成りつつあるアメリカ式のコミュニケーションを理解し日本式のコミュニケーションは何かを再認識する。</p> <p>4．対人コミュニケーション、プレゼンテーションのトレーニングを通じて、パブリックスピーキング力を高める。</p>			
<p>[注意事項] 英語の辞書を持参してください。授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進める。課題や小テストを課し、それを成績に反映する。</p>						
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 特になし</p>						
<p>[レポート等] 授業中適宜に課題を与え、レポートを提出してもらう。</p>						
<p>教科書：なし</p> <p>参考書：適宜紹介</p>						
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>後期中間・学年末の2回の試験の平均点を60%、課題（レポート）20%、小テストの結果を20%として評価する。後期中間・学年末試験ともに再試験は行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>後期中間・学年末の2回の試験、課題（レポート）小テストにより、学業成績で60点以上を修得すること。</p>						

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
センサ工学	平成18年度	鈴木昭二	専2	後期	2	必

[授業の目標]

センサの種類、動作原理、性能指数およびセンシング応用技術を学び、自動化、計測制御技術の基礎を修得することを目標とする。

[授業の内容]

第1週の内容は学習・教育目標(A) <視野> <技術者倫理> および JABEE 基準 1(1)(a)(b)に相当し、第2週～第15週の内容は学習・教育目標(B) <専門> および JABEE 基準 1(1)(d)(2)a)に相当する。

- 第1週 センサ工学の歴史と現状
- 第2週 センサの定義、基本構成
- 第3週 センサの分類
- 第4週 センサの信号処理技術
- 第5週 機械量センサ：変位センサ
- 第6週 機械量センサ：位置センサ

- 第7週 機械量センサ：圧力センサ
- 第8週 機械量センサ：ひずみゲージ
- 第9週 中間テスト
- 第10週 温度センサ：パイメタル、測温抵抗体
- 第11週 温度センサ：熱電対、サーミスタ、IC温度センサ
- 第12週 湿度センサ：湿度の定義と表し方
- 第13週 湿度センサ：各種湿度センサ
- 第14週 磁気センサ
- 第15週 光センサ

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. センサ工学の歴史と現状について学び、センサの技術動向を知ることができる。
2. センサの定義、基本構成を理解できる。
3. 多岐にわたるセンサを分類・整理し、全体像を把握することができる。

4. センサを用いた自動化、制御技術の基礎を理解できる。
5. 機械量センサ(変位、位置、圧力、ひずみ)、温度センサ、湿度センサ、磁気センサおよび光センサについて、動作原理、構造、性能および応用例を理解できる。

[注意事項] 「センサを制するものは、科学技術を制する」と言われるほど、センサおよびその応用技術の重要性が増大しており、開発研究も加速している。これらは、あらゆる分野で幅広く利用されている技術であり、これからの技術者には不可欠の技術であるから、センサについての整理された知識を身につけるよう努力して欲しい。自己学習を前提とした規定の単位制度に基づき講義を進めるので、レポートの提出等を求める。したがって、日頃の勉強に力を入れること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] センサ工学は新素材、デバイスおよび情報処理システムの3分野にまたがる総合科学であるから幅広い知識を必要とするが、とくに、電気電子材料、半導体デバイスおよび信号処理に関する基礎知識があることが望ましい。

[レポート等] 課題を出してレポートを提出してもらおう。レポートは内容だけでなく、文章表現力も評価の対象とする。

教科書：「センサと基礎技術」 南任 靖雄著 (工学図書株式会社)

参考書：「センサデバイス」 浜川 圭弘著(コロナ社)、「センサ」 千原 国宏著(コロナ社)、「センサの上手な使い方」 国岡 昭夫著 工業調査会、「最近のセンサ」 電気学会編 などがある。

[学業成績の評価方法および評価基準] 後期中間、学年末の2回の試験の平均点を80%、課題レポートの結果を20%として、その合計点で評価する。ただし、後期中間試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として再試験の成績で置き換えるものとする。

[単位修得要件] 後期中間、学年末の2回の試験の平均点および課題レポートの結果をそれぞれ80%および20%とし、その合計点が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物性工学	平成18年度	花井 孝明	専2	前期	2	必

[授業の目標]

物質のマクロな(巨視的な)性質は、原子レベルの微視的構造や原子間の結合状態によって大きく変化する。したがって、物質の持つ種々の性質(物性)を理解する上で、その構造との関連を知ることが重要である。この授業では、種々の物性のうち特に電子物性に絞りを絞って、結晶構造と結晶中での電子のふるまいについて講義する。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標(B)<専門>とJABEE基準1(1)(d)(2)a)に対応する。

第1週 物質の力学的性質, 熱的性質, 電気伝導, 磁性の概要
 第2週 物質の構造と物性
 第3週 空間格子と単位格子
 第4週 空間格子の基本型
 第5週 結晶格子面とミラー指数
 第6週 典型的な結晶構造
 第7週 結晶による回折現象
 第8週 中間試験

第9週 電子の粒子性と波動性
 第10週 X線回折と電子線回折
 第11週 結晶構造因子
 第12週 量子論の導入とシュレーディンガー方程式
 第13週 井戸型ポテンシャル中での電子のふるまい
 第14週 周期ポテンシャル中での電子のふるまい
 第15週 半導体中の電気伝導

[この授業で習得する「知識・能力」]

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 結晶の構造を記述する用語を使うことができる。 2. 格子点, 単位格子の考え方を理解している。 3. 簡単な結晶について, 結晶面とミラー指数の関係を示すことができる。 4. 典型的な結晶構造を理解している。 5. 回折のブラッグ条件を答えることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 6. 物質の電子構造と電気伝導率の関係の概要を説明できる。 7. 井戸型ポテンシャル中の電子の波動関数を求めることができる。 8. 周期ポテンシャル中の電子のふるまいについてその概略を理解している。 9. 半導体中の電気伝導の概略を説明できる。 |
|---|---|

[注意事項] 物質の性質は、電気的性質, 磁気的性質, 力学的性質, 熱的性質, 光学的性質など実に多様であり、限られた時間数ですべてを取り扱うことは不可能である。興味のある者は、参考書にてさらに学習することを勧める。規定の単位制に基づき、自己学習を前提として授業を進め、自己学習の成果を評価するためにレポート提出や小テストを実施するので、日頃から自己学習に励むこと。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 高専卒業程度の応用物理の知識

[レポート等] 適宜レポート提出を求める。

教科書: なし, ノート講義

参考書: インターユニバーシティ電子物性 吉田明編(オーム社), 入門固体物性 斉藤, 今井等共著(共立出版), 固体物理学入門 C.Kittel 著, 字野良, 津屋等共訳(丸善)

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間, 期末の2回の試験の平均点を80%, レポートの評価を10%, 小テストの平均点を10%として評価する。ただし, 60点に達していない者には再試験を課し, 試験の成績を上回った場合には, 60点を上限として試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
生命工学	平成 18 年度	田村 陽次郎	専 2	後期	2	選

[授業の目標]

生物を分子で出来た機械として捉える時,その知識は物作りのための重要な源泉になる。講義では生理学,分子生物学の用語に慣れると共に、生命の作る機械の中で、神経回路および筋収縮の機構に関しての理解を深めていく。

[授業の内容]

授業の概要

- 第 1 週 - Nervous System, Structure of nerve cell
- 第 2 週 Membrane potential
- 第 3 週 The action potential
- 第 4 週 Propagation of an action potential
- 第 5 週 - Excitatory and inhibitory receptors
- 第 6 週 - Reflex arc
- 第 7 週 Sensory receptors
- 第 8 週 中間試験

- 第 9 週 Muscle, Structure of skeletal muscle
- 第 10 週 The sarcomere
- 第 11 週 Structure of actin and myosin filament
- 第 12 週 - The length tension relation of skeletal muscle
- 第 13 週 E-C coupling
- 第 14 週 The force velocity characteristic of skeletal muscle
- 第 15 週 Types of muscle contraction

上記の授業は全て学習,教育目標 (B) <基礎> および, JABEE 基準 1(1)の(c)に対応する。

[この授業で修得する「知識・能力」]

1. 神経系,筋等において生理学,分子生物学で使われる用語を理解する。
2. 神経系,筋等に現われる生命分子機械の構造を理解する。
3. 神経系,筋等に現われる生命分子機械の働きを理解する。

4. 生命分子機械の構造と機能の関係を理解する。
全て (B) <基礎> に該当する。

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出を求める。米国の大学の学部学生向けに作られた生理学のテキストを使って輪講を行う。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 熱力学の基礎を理解していること。学年相当の英語力があること。

[レポート等] 課題としてプリントの指示に従って各自図表を完成させる。

参考書：「Physiology coloring workbook」K.Axen et.al., (The Princeton review), 「Molecular Biology of The Cell」B.Alberts et.al., (Garl and Publishing Inc.) 「Biochemistry」D.Voet & J.G.Voet (John Willy & Sons, Inc)

[学業成績の評価方法および評価基準] 自己学習を前提として適宜求める課題の提出をしていなければならない。後期中間・学年末の 2 回の定期試験を 50%、課題を 50% として評価し、60% 以上の得点を得たものを合格とする。中間試験で 60 点を達成できない場合には再試験を行う。ただし、再試験については 60 点を上限とする。学年末試験においては再試験を行わない。

[単位修得要件] 学業成績で 60 点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
先端技術特論	平成18年度	桑原, 井瀬, 末次, 他	専1・2	通年	2	選

[授業の目標]

SCSなどを利用し、豊田、岐阜、沼津高専等と協力して、映像・音声による双方向の遠隔授業などを行う。先端的な研究の紹介、関連分野の最近の技術と動向に触れ、先端技術研究への知識と関心を深める。

[授業の内容] (学習・教育目標 B<専門>, JABEE(d)(2)a)に対応)

1. 「システム回路や制御ネットワークの推定法」

池田 徹之(岐阜高専 教授 専門基礎)

2. 「種々の応力ひずみ解析手法について」

末次 正寛(鈴鹿高専 助教授 機械工学科)

3. 「生産加工へのIT 応用技術について」

藤尾 三紀夫(沼津高専 助教授 制御情報工学科)

4. 「リチウムイオン導電性材料」

大塚 秀昭(豊田高専 教授 一般学科物理)

5. 「質量分析法の昨今」

桑原 裕史(鈴鹿高専 教授 電子情報工学科)

6. 「食品ポリフェノールの機能性について」

芳野 恭士(沼津高専 教授 物質工学科)

7. 「LSI の配線技術」

井瀬 潔(鈴鹿高専 教授 電子情報工学科)

8. 「福祉ロボットについて」

北川 秀夫(岐阜高専 助教授 電子制御工学科)

9. 「高分子絶縁材料の交流高電界下での電気伝導特性」

遠山 和之(沼津高専 助教授 電子制御工学科)

10. 「既設円筒鋼製橋脚の耐震補強法について」

忠 和男(豊田高専 助教授 環境都市工学科)

11. 「最適化手法のひとつである遺伝的アルゴリズムの地下水問題への適用について」

鈴木 孝男(岐阜高専 教授 環境都市工学科)

12. 「化合物半導体半導体の基礎とその応用」

杉浦 藤虎(豊田高専 助教授 電気・電子システム工学科)

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 講義のポイントを理解し、レポートに要点がわかりやすくまとめられている。

2. 疑問点を明確にし、レポートの中で、考察、資料調査がなされている。また、講義中に講師の指示により、必要に応じて質疑応答ができる。

3. レポートにおいて、講義で紹介された技術の基礎、関連事項、動向、応用について、調査がなされている。

[注意事項] 教室は通常、専攻科棟4階のAVルームを使用する。講義題目と日時は、専攻科玄関の掲示板に掲示、またはタッチパネルに掲載する。原則、15回の講義が準備されるが13回目～15回目の講義については、講義題目、日時が決定次第通知する。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

[レポート等] 2週間以内に専攻科長に提出する。

教科書：講義のレジユメ(講義要旨)を配布する場合がある。

参考書：特になし。

[学業成績の評価方法および評価基準]

12回以上講義を受講してレポートを提出する。提出されたレポートにより成績を評価する。

[単位修得要件]

評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
実践工業数学	平成18年度	授業担当教員	専1・2	前期	2	選

[授業の目標]

eラーニングに係る遠隔教育により、工学の各専門に用いられる数学を、応用面から理解しながら学ぶ。

[授業の内容] (学習目標B<専門>, JABEE(d)(2)a)に対応)

機械工学編 - ベクトルと行列

主担当：鈴鹿高専（機械工学科）白井達也

数学部分：群馬高専 碓氷久，鈴鹿高専 安富真一

(1) 多関節ロボットの順運動学

(2) 多関節ロボットの逆運動学

電気・電子工学編 - 微分方程式，ベクトル，確率，関数

主担当：鈴鹿高専（電気電子工学科）柴垣寛治

数学部分：岐阜高専 岡田章三，鈴鹿高専 堀江太郎

(1) 放電現象の物理

(2) 気体論

情報工学編 - ベクトルと行列

主担当：鈴鹿高専（電子情報工学科）箕浦弘人

数学部分：鈴鹿高専 安富真一

(1) 三次元グラフィックス

(2) 三次元位置計測

通信工学編 - 整数論、ガロア体

主担当：鈴鹿高専（電子情報工学科）吉川英機

数学部分：鈴鹿高専 堀江太郎

(1) 代数的符号とその復号法(1)

(2) 代数的符号とその復号法(2)

生物工学編 - 確率・統計

主担当：鈴鹿高専（生物応用化学科）中山浩伸

数学部分：岐阜高専 岡田章三，鈴鹿高専 堀江太郎

(1) 生物統計1 パラメトリックな検定

(2) 生物統計2 ノンパラメトリックな検定

物理化学編 - 微分・積分，微分方程式，三角関数

主担当：鈴鹿高専（材料工学科）和田憲幸

数学部分：岐阜高専 岡田章三，鈴鹿高専 長瀬治男

(1) 熱力学の基礎方程式とその応用

(2) シュレーディンガー方程式とその解(並進運動(1次元，3次元))

(3) シュレーディンガー方程式とその解(調和振動，回転運動)
(三角関数とそれらの公式，微分・積分，微分方程式)

材料工学編 - 微分方程式と関数

主担当：鈴鹿高専（材料工学科）兼松秀行

数学部分：鈴鹿高専 安富真一

(1) フィックの第一法則

(2) フィックの第二法則

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 講義のポイントを理解し，レポートに要点がわかりやすくまとめられている。
2. 疑問点を明確にし，レポートの中で，考察，資料調査がなされている。また，必要に応じてメール等により質疑応答ができる。

3. レポートにおいて，講義で紹介された内容、関連事項、応用について，学習がなされている。

[注意事項]

この科目は「単位互換を伴う実践型講義配信事業に係る単位互換協定」における単位互換科目として実施する。自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進めるので，日頃の勉強に力を入れること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 各学科の学科卒業程度の習得

[レポート等] 指定された期日及び方法で提出する。

教科書：実践工業数学（受講者に配布）

参考書：特になし。

[学業成績の評価方法および評価基準] 適宜レポートを提出する。提出レポート(100%)により学業成績を総合的に評価する。評価基準は、次のとおり。優(100~80点)、良(79~65点)、可(64~60点)、不可(59点以下)

[単位修得要件] 評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子機械工学輪講	平成18年度	専攻科担当教員	専2	前期	2	必

[授業の目標]

特別研究に関連した国内外の論文などを講読或いは輪読して基本的事項を理解し、最近の研究動向を知るとともに、その内容をまとめて紹介する能力を培う。さらに、質疑応答などにより内容を発展させ、特別研究を進める上での基礎を培う。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標 B<専門>、C<英語> [JABEE 学習・教育目標(d)(2)a), (f)] に対応する。

特別研究を発展させる上で必要な基本的な文献、および最近の国内外の論文資料を講読或いは輪読し、研究動向を知るとともに、内容の解説、紹介および質疑応答を通して、技術者として不可欠な文献の理解力と発表能力を培う。また、最新の文献を入手するために必要な、データベース等を利用する文献検索の方法を修得する。

特別研究のテーマに関連したもので、以下の分野から選択する。

1. <機械工学> 機械力学、材料力学、計算力学、有限要素法、計算機援用工学、弾性学、熱力学、熱工学、流体工学、気液混相流、液体の微粒化、精密工学、機械工作法、精密加工、制御工学、応力ひずみ解析、真空工学

2. <電気・電子工学> 高電圧工学、送配電工学、電子工学、電子回路、電子物性、放電物理、固体電子工学、集積回路工学、情報科学、知能情報学、ニューラルネットワーク、パターン認識、画像処理工学、制御工学、電子線機器学

3. <電子情報工学> 電子工学、半導体デバイス、情報電子回路、電子計測、プラズマ理工学、放電応用、超真空工学、電磁エネルギー工学、情報制御システム、バイオロボティクス、情報工学、通信伝送工学、通信符号理論、自然言語処理、バーチャルリアリティ

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 特別研究に関する国内外(海外のものについては特に英文論文)の論文の講読或いは輪読ができる。
2. 論文の検索方法が修得でき、関連する先行研究について論文の調査ができる。

3. 講読或いは輪読した論文について、内容をまとめることができ、指導教員に内容を明確に説明することができる。

[注意事項]

論文の選定には特別研究の指導教員と十分に相談すること。また、周辺分野の基本的な事項にも十分な関心を払うこと。

[レポート等] 指導教員に従いレポートで報告すること。

教科書：

参考書：

[学業成績の評価方法および評価基準]

各自に課せられた輪読およびそれらに関するレポートの結果により学業成績を評価する。

[単位修得要件]

評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子機械工学実験	平成18年度	専攻科担当教員	専2	前期	2	必

[授業の目標]

専攻科特別研究と、また、学位授与申請のための学修成果レポート作成の準備として、配属された機械、電気、電子情報工学分野の研究室において、これまでの研究をさらに進展させるとともに、成果をまとめるための実験を行う。

[授業の内容]

全ての週の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎> <専門> [JABEE 学習・教育目標(d)(2)b)c)d),(e),(g),(h)] に対応する。

機械、電気、電子情報工学分野の配属された研究室において、指導教員の下で、特別研究テーマに関係した実験、プログラミング、シミュレーション、測定などをさらに進展させ、技術者としての研究開発能力を培う。また、共同作業により、コミュニケーション能力を身につけるとともに、データの整理、報告書作成、プレゼンテーションなどを通して、技術者として自主的に仕事を進めるために必要な能力を養う。

実験は特別研究のテーマに関連したもので、以下の分野から選択する。

1. <機械工学> 機械力学、材料力学、計算力学、有限要素法、計算機援用工学、弾性学、熱力学、熱工学、流体工学、気液混相流、液体の微粒化、精密工学、機械工作法、精密加工、制御工学、応力ひずみ解析、真空工学

2. <電気工学> 高電圧工学、送配電工学、電子工学、電子回路、電子物性、放電物理、固体電子工学、集積回路工学、情報科学、知能情報学、ニューラルネットワーク、パターン認識、画像処理工学

3. <電子情報工学> 電子工学、半導体デバイス、情報電子回路、電子計測、プラズマ理工学、放電応用、超真空工学、電磁エネルギー工学、情報制御システム、バイオロボティクス、情報工学、通信伝送工学、通信符号理論、自然言語処理、バーチャルリアリティ

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 特別研究を遂行するための実験、プログラミング、シミュレーション、測定などの具体的作業が一層進められている。
2. 先行研究について継続的学修がなされている。
3. 研究をまとめるための具体的作業が進められている。

4. 1年生から始めた実験結果、考察をまとめた、総合的実験報告書が提出されている。
5. 上記報告書に基づいて、指導教員に成果の内容を明確に説明することができる。

[注意事項] 実験の計画、実施に当たっては、必ず指導教員に報告し、その指導に従うこと。器具、装置の使用に当たっては、指導教員から指示された注意事項を守ること。

[レポート等] 実験目的、成果、考察をまとめた総合報告書を指導教員に提出する。

教科書：

参考書：

[学業成績の評価方法および評価基準]

各自に課せられた実験操作・作業およびレポートにより学業成績を評価する。

[単位修得要件]

評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
特別研究	平成18年度	電子機械工学専攻特別研究 指導教員	専1,2	通年	12	必

[授業の目標]

研究の遂行を通して、機械工学、電気電子工学や電子情報工学に関する高度な専門知識と実験技術を把握し、継続的・自主的に学習できる能力、或いは修得した知識をもとに創造性を発揮し、計画的に仕事ができる能力を持つ学生を育成する。また、論文作成や研究発表を通して、文章表現力、プレゼンテーション等のコミュニケーション能力を育成する。

[授業の内容]

全て学習・教育目標(A)<意欲>、(B)<展開>、(C)<発表>、(C)<英語>[JABEE 学習・教育目標(d)(2)b)c)d),(e),(f),(g),(h)]に対応する。

学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の指導の下に研究を行う。テーマの分野は次の通りである。

1. <機械工学> 機械力学, 材料力学, 計算力学, 有限要素法, 計算機援用工学, 弾性学, 熱力学, 熱工学, 流体工学, 気液混相流, 液体の微粒化, 精密工学, 機械工作法, 精密加工, 制御工学, 応力ひずみ解析, 真空工学等

2. <電気電子工学> 高電圧工学, 送配電工学, 電子工学, 電子回路, 電子物性, 放電物理, 固体電子工学, 集積回路工学, 情報科学, 知能情報学, ニューラルネットワーク, パターン認識, 画像処理工学, 制御工学, 電子線機器学等

3. <電子情報工学> 電子工学, 半導体デバイス, 情報電子回路, 電子計測, プラズマ理工学, 放電応用, 超真空工学, 電磁エネルギー工学, 情報制御システム, バイオロボティクス, 情報工学, 通信伝送工学, 通信符号理論, 自然言語処理, パーチャルリアリティ等

- ・ 専攻科1年生時に特別研究の中間発表会で、それまで行ってきた特別研究の内容を発表する。
- ・ 専攻科2年生の学年末時に特別研究論文を提出する。
- ・ また、専攻科2年生の学年末時に最終発表会で特別研究の発表を行う。

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 修得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自立的に学習できる。
2. 修得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進め、まとめることができる。
3. 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
4. 英語による基本的な意志伝達ができる。

[注意事項] 特別研究は学科で学んだ卒業研究に続いて行われるものであり、基本的には2年間或いは学科を含む3年間で1つのテーマに取り組むことになる。長期間に亘るのでしっかりと計画の下に自主的に研究を遂行する。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 研究テーマに関する周辺の基礎的事項についての知見、或いはレポート等による報告書作成に関する基礎的知識。

[レポート等] 理解を深めるため、適宜、関係論文、書物を与え、また、レポート等の課題を与える。

教科書：各指導教員に委ねる。

参考書：各指導教員に委ねる。

[学業成績の評価方法および評価基準]

特別研究成績評価表の配点にしたがって、特別研究論文(70%)、中間発表(14%)、最終発表(16%)で評価する。

[単位修得要件]

評価結果が60点以上であること。

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
生産設計工学	平成 18 年度	打田 元美	専 2	後期	2	選

[授業の目標]

近年の新素材の加工法とその部品に要求される精度は著しく向上している。本講義において先端技術の加工のメカニズムおよび加工システムを学ぶことにより、生産技術者あるいは設計技術者として必要な事項を習得する。

[授業の内容] 全ての週の内容は、学習・教育目標(B) <専門> および JABEE 基準 1(1)(d)(2)a)に対応する。

第 1 週 授業の概要

(加工技術) 難加工材料の加工

第 2 週 高精度加工技術

第 3 週 加工モデル解析

(加工の種類)

第 4 週 電氣的加工

第 5 週 電氣的加工の応用

第 6 週 化学的加工

第 7 週 化学的加工の応用

第 8 週 高エネルギー - ビ - ム加工

第 9 週 高エネルギー - ビ - ム加工の応用

第 10 週 射出成形法

第 11 週 三次元造形

第 12 週 超音波加工

第 13 週 研磨加工技術

(加工精度の評価と応用)

第 14 週 光応用計測

第 15 週 バイオメカニクスへの応用

[到達目標] (この授業で習得すべき知識・能力)

(加工技術)

1. 基礎的な加工方法について説明できる。
2. セラミックスなどの難加工材の加工方法について説明できる。
3. 切削理論を簡単に説明できる。
4. 精密加工法を説明できる。

(加工の種類)

1. 加工法をエネルギー - 供給別に分類し、説明することができる。
2. 放電加工の原理と応用について説明できる。
3. 金属の腐食を利用して加工する方法について説明できる。

4. レ - ザ加工の原理と加工法について説明できる。

5. レ - ザ加工の応用について説明できる。

6. コンピュータ - 制御を利用した加工法を説明できる。

(加工精度評価と応用)

1. 表面粗さ測定を接触法と非接触に分けて説明できる。

2. 医療分野などにおいて応用できる範囲について説明できる

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題提出を求めたりシヨ - トテストを行うので、日頃の勉強に力を入れること。対象が工学全分野にわたるため、積極的な取り組みを期待する。疑問が生じたら直ちに質問すること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 数学、物理は理解している必要がある。

[レポート等] 理解を深めるため、随時、演習課題を与える。

教科書：「超精密加工学」 丸井悦男 (コロナ社)

参考書：授業時に参考プリント配布

[学業成績の評価方法および評価基準]

適宜求めるレポートの提出をしていなければならない。後期中間、後期末の 2 回の試験の平均点を 60%、課題の評価を 20%、シヨ - トテストを 20%として評価する。ただし、中間試験の得点が 60 点に満たない場合は、補講の受験やレポート提出後、再テストにより再度評価し、先の試験の得点を 60 点と見なす。

[単位修得要件] 学業成績で 60 点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
ヒューマンインターフェース	平成18年度	箕浦 弘人	専2	前期	2	選

<p>[授業の目標]</p> <p>「ものの使いやすさ」を意識した人間と機器とのインターフェースの設計の指針を、身近なものや先端技術を例に挙げ学ぶ。</p>	
<p>[授業の内容] 全ての週の内容は、学習・教育目標(B) < 専門 > , JABEE 基準 1(1)(d)(2)a)に対応する。</p> <p>第1週 人間の感覚と知覚</p> <p>第2週 人間の生理特性・認知と理解</p> <p>第3週 デザイン目標とユーザ特性</p> <p>第4週 対話型システムの設計</p> <p>第5週 インターフェースの評価</p> <p>第6週 人間と人間のインターフェース</p> <p>第7週 インターフェースの評価の実践(身の回りの物について使いやすさについて考察し、改善点について検討する。(受講者がプレゼンテーションし、互いに討論する)(学習・教育目標(c) < 発表 > , JABEE 基準 1(1)(f))</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 キーボード・マウスの種類と入力方法</p> <p>第10週 プリンタの種類と印刷方法</p> <p>第11週 ディスプレイの種類と表示方法</p> <p>第12週 ビジュアルインターフェース</p> <p>第13週 マルチユーザインターフェース</p> <p>第14週 先端技術とインターフェース</p> <p>第15週 インターフェース開発の今後</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1.人間の知覚と感覚、生理特性、認知と理解について説明できる。</p> <p>2.デザイン目標とユーザ特性について説明できる。</p> <p>3.インターフェースの設計と評価について説明できる。</p> <p>4.人間と人間の意思疎通を良好に行う為に必要な点を理解している。</p>	<p>5.コンピュータの入出力機器(キーボード・マウス・プリンタ・ディスプレイ)の原理が説明できる</p> <p>6.先端技術を用いたインターフェースの概要を理解し、その問題点を検討することができる。</p>
<p>[注意事項] 高機能な機器を開発する上で、いかに利用し易くそれを作るかということは非常に重要な問題となる。この講義でそのような問題の解決のためのいくつかの手法を学んでほしい。具体的な例を多く挙げて説明するので、興味を持って聞いてほしい</p> <p>なお、単位制を前提としてレポート提出や小テストを課す授業進行を行うので、日頃の勉強に力を注ぐこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>情報基礎、電気電子回路の基礎があれば十分である。新しい教科であり、特に要求される基礎知識なしに受講できる。</p>	
<p>[レポート等] 適宜レポートの提出を求める。</p>	
<p>教科書： 「ヒューマンコンピュータインタラクション」 岡田謙一 他 (オーム社)</p> <p>参考書： 「認知インターフェース」 加藤隆 (オーム社)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験, 中間試験の2回の試験の平均点を70%、課題(プレゼンテーション・レポート)を20%、小テストを10%で評価する。</p> <p>再試験は実施しない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	科目コード	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
メカトロニクス工学特論	平成 18 年度	斉藤正美	専 2	後期	2	選

[授業の目標] 機械、電気、電子情報工学の融合技術であるメカトロニクス工学の基本をなす制御理論・技術のより深い理解と修得を目的とし、レーダアンテナ系と倒立振り制御系を対象として、PID 制御法および状態フィードバック法を用いた実践的な制御系設計手法を習得する。

[授業の内容] 第 1 週～15 週までの内容はすべて、学習・教育目標 B < 専門 > と JABEE 認定基準 1(1)の(d)(2)a)に相当する項目である。

第 1 週 制御系におけるモデリングと伝達関数

第 2 週 根軌跡法による安定判別

第 3 週 レーダアンテナの速度制御

第 4 週 レーダアンテナの位置制御

第 5 週 PID 制御法による系の補償

第 6 週 現代制御理論 - 状態方程式と可制御・可観測

第 7 週 現代制御理論 - 状態フィードバックと極配置法

第 8 週 中間試験

第 9 週 倒立振り・台車系の制御における 数学モデルの作成，状態方程式と出力方程式の導出、可制御・可観測の判定

第 10 週 倒立振り・台車系の制御 - 状態フィードバック法と極配置法によるフィードバック係数の決定

第 11 週 倒立振り制御系の設計 1 - 極配置法による設計

第 12 週 倒立振り制御系の設計 2 - 最適制御法による設計

第 13 週 M A T L A B による制御系の設計 1 - Control System Toolbox とその機能

第 14 週 M A T L A B による制御系の設計 2 - Simulink とその機能

第 15 週 倒立振子の制御の実際 (コンピュータ制御システム)

[この授業で習得する [知識・能力]]

1. 状態フィードバック制御系におけるモデリングができる。
2. 制御系の安定判別ができる。
3. 可制御・可観測の判別ができる。
4. レーダアンテナ系の速度・位置制御法が理解できる。
5. P I D 制御の特徴とそれに基づく制御系設計手法が理解できる。

6. 倒立振り制御系の状態フィードバック制御法が理解できる。
7. 極配置法，最適制御による倒立振り制御系の設計ができる。
8. M A T L A B - Control System Toolbox の機能を理解し、それを用いて基本的な制御系設計ができる。
9. M A T L A B - Simulink の機能を理解し、それを用いて基本的な制御系設計ができる。
10. 倒立振子のコンピュータ制御システムが理解できる

[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づいて授業を進め、また本工学分野における問題解決能力を養うために課題提出を求めるので、授業外における勉強にも力を入れること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 力学，基礎制御理論，電気電子回路の基礎知識が必要である。

[レポート等] エンジニアリングソフト M A T L A B を用いた制御系設計課題の実施とレポートの提出を求める。

教科書：「機械制御入門」雨宮好文編、末松良一著（オーム社）

なお、制御系設計課題の自己学習のための自作のテキストを用意する。

参考書：「メカトロニクスのための電子回路基礎」西堀賢司著（コロナ社）

「M A T L A B による制御設計」野波健蔵編（東京電機大学出版局）

[学業成績の評価方法および評価基準] 適宜求めるレポートの提出をしなければならない。また、後期中間、学年末の 2 回の試験の成績（平均点）を 60%、課題の評価を 40% として評価する。再試験は行わない。

[単位修得要件] 学業成績で 60 点以上を取得すること

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
新素材工学	平成18年度	北村 登・伊藤 明	専2	前期	2	選

[授業の目標] 材料技術の進歩には目を見張るものがあり、「材料を制するものは産業を制する」といわれるほどに、材料の重要性が認知されるようになった。科学技術のあらゆる分野での基盤をなすものとしての材料を新しい観点で見直し、材料および素材への技術者としての認識を深めることを目的とする。

<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(B)＜専門＞および JABEE 基準 1(1)(d)(1)に対応する。</p> <p>第1週 シリコンの結晶成長，化合物半導体 第2週 光ファイバー，石英ガラスファイバーの製造 第3週 半導体発光素子 第4週 半導体発光素子 第5週 受光素子 第6週 太陽電池 第7週 液晶 第8週 中間試験</p>	<p>第9週 磁性材料の概要，物質の磁氣的性質 第10週 各種磁性材料 第11週 各種磁性材料 第12週 誘電材料の概要 第13週 誘電体材料 第14週 誘電体材料 第15週 材料工学のこれから</p>
---	---

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シリコン、化合物半導体の基礎的事項を理解している。 2. 光ファイバーに関する基礎的事項を理解している。 3. 発光・受光素子の原理に関する基礎的事項を理解している。 4. 太陽電池の原理に関する基礎的事項を理解している。 5. 液晶に関する基礎的事項を理解している。 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 磁気材料に関する基礎的事項を理解している。 7. 各種磁性材料の特徴などについて理解している。 8. 誘電材料に関する基礎的事項を理解している。 9. 各種誘電材料の特徴などについて理解している。
---	--

[注意事項]新素材は現在あらゆる分野で，最も注目されているキーワードの一つである。授業では主としてセンサ用材料を取り上げ，その特性を中心として学習する。したがって，授業では取り上げることができない分野での素材等については各自参考文献などにより学習してもらいたい。

また，授業は自己学習を前提とした規定の単位制に基づき進めるので，課題提出を求めたり小テストを行うなどして自己学習の成果に対する評価を実施することもある。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 物理および化学の一般的な基礎知識。

[レポート等] 適宜，課題を与えレポート提出を課すこともある。

教科書：澤岡昭著，「電子材料」，森北出版
参考書：非常に範囲が広く，各工学分野における材料を対象として参考書が数多く出版されている。

[学業成績の評価方法および評価基準] 中間試験，定期試験の2回の試験の平均点で評価する。再試験を実施した場合には，60点を上限として評価する。小テストやレポートを実施した場合には，試験の結果を70%，小テストの結果を10%，課題(レポート)を20%で評価する。

[単位修得要件]
学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子線機器工学	平成18年度	花井 孝明	専2	前期	2	選

[授業の目標]

真空中を一定の速度で運動する多数の電子を電子線または電子ビームと呼ぶ。電子線を利用する機器は、クライストロン、進行波管などの高周波通信機器、陰極線管（CRT）、撮像管などの画像機器、電子顕微鏡などの計測機器と幅広い。この授業では、電子線機器を知るための基礎となる電磁界中での電子の運動を主として学び、電子顕微鏡や各種電子線機器に用いられる電子レンズの作用と、電子レンズ中での電子軌道についてその概略を学ぶ。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標(B)＜専門＞とJABEE基準1(1)(d)(2)a)に対応する。

- 第1週 電子の粒子性と波動性
- 第2週 電子線機器の種類と用途、電子線機器の構成要素
- 第3週 一様電界中での電子の運動とその応用
- 第4週 一様磁界中での電子の運動とその応用
- 第5週 一般電磁界と直交電磁界における運動方程式
- 第6週 直交電磁界中での電子の運動
- 第7週 直交電磁界を用いた電子エネルギー分析
- 第8週 中間試験

- 第9週 円筒座標系における運動方程式の導出
- 第10週 運動方程式と軌道方程式，Bushの定理
- 第11週 軸対称な電磁界中での電子の運動，電子レンズ
- 第12週 近軸軌道方程式の導出
- 第13週 近軸電子線のレンズ作用
- 第14週 電子レンズを用いた回折パターンの観察
- 第15週 レンズ公式と近軸不変量

[この授業で習得する「知識・能力」]

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 一様電界中における電子の運動を論ずることができる。 2. 一様磁界中における電子の運動を論ずることができる。 3. 一般電磁界，直交電磁界中の電子の運動方程式を答えることができる。 4. 直交電磁界中における電子の運動を論ずることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 5. Bushの定理を用いて電子の角運動量を求めることができる。 6. 近軸軌道方程式の導出過程を答えることができる。 7. 基本的な電子レンズの作用を理解し，応用することができる。 8. 近軸軌道方程式から近軸不変量を導くことができる。 |
|--|--|

[注意事項] 規定の単位制に基づき，自己学習を前提として授業を進め，自己学習の成果を評価するためにレポート提出や小テストを実施するので，日頃から自己学習に励むこと。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

質点の力学，電気磁気学の基礎知識

[レポート等] 適宜レポート提出を求める。

教科書：なし，ノート講義

参考書：電子管工学 桜庭一郎（森北出版）

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間，期末の2回の試験の平均点を80%，レポートの評価を10%，小テストの平均点を10%として評価する。ただし，中間試験で60点に達していない者には再試験を課し，再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には，60点を上限として中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。